

～今を見つめ、未来を担う～

平成 25 年度

姫路市子ども議会 会議録

平成 25 年（2013 年）11 月 24 日

姫 路 市 議 会

「姫路市こども議会」会議録発刊にあたって



姫路市議会議長
杉本博昭

本市議会では、平成25年11月24日に、「今を見つめ、未来を担う」をテーマに、姫路市子ども議会を開催しました。

この子ども議会では、子ども議員から、姫路市の将来についての問題や身近に起きている問題など市政の幅広い分野について、鋭い視点から質問や提案が行われました。市当局との実りある議論を通して、市政のこと、議会のことをより身近に感じていただけたのではないかと考えております。

また、議場での子ども議員の堂々とした姿を拝見し、頼もしく心強く感じたところであり、次代を担う子どもたちの力が、これからの姫路市をより明るい未来へと導いてくれるものと大いに期待しております。

今後も本市議会は、より一層市民の皆様が参画しやすい議会を目指して取り組んでまいります。

今回、この会議録を作成し、多くの方々にご覧いただくことで、さらに議会活動にご理解とご関心を持たれることを祈念いたしまして、発刊のごあいさつといたします。

平成26年（2014年）1月



目 次

出席子ども議員	1
事務局職員出席者	2
会議に出席した市長、職員及び委員	2
議事日程	3
議長あいさつ	4
市長あいさつ	4
議席の指定	5
会議録署名議員の指名	5
会期の決定	5
一般質問	6
1 角谷巴菜議員（広嶺中学校）質問	6
「小学校入学のお祝いに防犯ブザーを」	
中杉教育長答弁	6
2 白倉紅葉議員（豊富中学校）質問	7
「豊富町の環境問題について」	
松本下水道局長答弁	7
3 森あおい議員（四郷中学校校）質問	8
「お年寄りのための交通網」	
川渕都市局長答弁	8
4 南山晴海議員（安富中学校）質問	9
「田舎の高齢化問題とその弊害について」	
北川産業局長答弁	9
5 森丈二議員（坊勢中学校）質問	10
「部活動におけるスクールボートの使用条件の緩和について」	
中杉教育長答弁	11
6 濱田杏佳議員（山陽中学校）質問	11
「少子高齢化が進んでいるので、お年寄りでもできる仕事をつくり、 その仕事と働くお年寄りをサポートするための取り組みについて」	
山下市民局長答弁	12
7 浅野由希議員（東中学校）質問	12
「軍師官兵衛を機に、全国への的確なアピールを」	
石田副市長答弁	13

8	松下雄大議員（書写中学校）質問	13
	「書写全体で避難訓練を実施すること」	
	岡村危機管理担当理事答弁	14
9	茨遼河議員（琴陵中学校）質問	14
	「プロ野球やＪリーグが試合できるようなスポーツ施設の建設は可能か」	
	山下市民局長答弁	15
11	山本祥太議員（菅野中学校）質問	16
	「二列走行をなくし安全に通学するための自転車レーンの整備について」	
	後藤建設局長答弁	16
12	稲葉加奈子議員（大白書中学校）質問	17
	「通学路の歩道の充実（歩道の設置）」	
	後藤建設局長答弁	17
13	安武知将議員（夢前中学校）質問	17
	「カーブミラーについて」	
	後藤建設局長答弁	18
14	黒田唯人議員（広畑中学校）質問	19
	「軍師官兵衛の放映の際に姫路市が行うPR活動について」	
	釣観光・城改修担当理事答弁	19
15	田村旭陽議員（香寺中学校）質問	19
	「防災について 防災教育の徹底」	
	岡村危機管理担当理事答弁	20
16	久保田懸斗議員（淳心学院中学校）質問	20
	「介護施設について」	
	黒川健康福祉局長答弁	21
17	林陽香議員（安室中学校）質問	21
	「姫路市のPR活動について」	
	釣観光・城改修担当理事答弁	22
18	蔵下華蓮議員（東光中学校）質問	23
	「姫路の図書館をよくしてほしい」	
	中杉教育長答弁	23
19	円城寺彩議員（朝日中学校）質問	24
	「児童手当について」	
	大原こども育成担当理事答弁	25
20	田中萌慧議員（鹿谷中学校）質問	25
	「夢前町の活性化に向けての取り組みについて」	
	川渕都市局長答弁	26

21	北脇真琴議員（家島中学校）質問	26
	「明るく安全な街づくりのために」	
	後藤建設局長答弁	27
22	多田和平議員（増位中学校）質問	27
	「姫路駅前が今、開発され発展していますが、城下町や世界遺産のある都市としての姫路の個性について」	
	内海市長公室長答弁	28
23	山本祐規子議員（花田中学校）質問	29
	「祭などの伝統文化をどう残していくかについて」	
	中杉教育長答弁	29
24	小林恵理佳議員（林田中学校）質問	29
	「若い人も住めるような公共の住宅の建設について」	
	川淵都市局長答弁	30
25	加藤人識議員（灘中学校）質問	30
	「灘のけんか祭りによるゴミについて」	
	中澤環境局長答弁	31
26	池田奈美議員（飾磨西中学校）質問	32
	「トライやるウィークを小学生、あるいは中学一年生でも実施する取り組みができるのかについて」	
	中杉教育長答弁	32
27	善明詩乃議員（置塩中学校）質問	33
	「災害対策について」	
	飯島副市長答弁	33
28	牛尾哉太議員（城乾中学校）質問	34
	「いじめをなくすための対策について」	
	中杉教育長答弁	34
29	竇納千晴議員（賢明女子学院中学校）質問	35
	「姫路市立美術館などの展示物について」	
	中杉教育長答弁	35
30	檜皮拓也議員（網干中学校）質問	36
	「姫路駅周辺の工事の趣旨と今後の予定について」	
	「新しい入試制度（学区）について」	
	寺前副市長答弁	36
	中杉教育長答弁	37

31	上野天士郎議員（神南中学校）質問	37
	「スクールバスを利用した登園制度を作ることについて」	
	河原生活審議監答弁	38
32	木村愛哉議員（白鷺中学校）質問	38
	「大手前通りとその周辺を汚しているムクドリの子を取りのぞき、きれいな街並みにする手立てが何かないか」	
	後藤建設局長答弁	39
33	松崎智香議員（飾磨東中学校）質問	39
	「姫路市の特産物について」	
	北川産業局長答弁	40
34	中村恭輔議員（城山中学校）質問	40
	「町中に太陽光パネルをつけてはどうか」	
	中澤環境局長答弁	41
35	寺谷孔希議員（高丘中学校）質問	41
	「姫路市営モノレールについて」	
	「姫路城周辺の猫問題について」	
	甲良財政局長答弁	42
	釣観光・城改修担当理事答弁	42
	市長コメント	43
	副議長あいさつ	44
	感想文	46

出席子ども議員（34人）

1 番	かくたに はな 角 谷 巴 菜（広嶺中学校）	1 9 番	えんじょうじ あや 円城寺 彩（朝日中学校）
2 番	しらくら もみじ 白 倉 紅 葉（豊富中学校）	2 0 番	たなか もえ 田 中 萌 慧（鹿谷中学校）
3 番	もり あおい 森 あおい（四郷中学校）	2 1 番	きたわき まこと 北 脇 真 琴（家島中学校）
4 番	みなみやま はるみ 南 山 晴 海（安富中学校）	2 2 番	ただ わへい 多 田 和 平（増位中学校）
5 番	もり じょうじ 森 丈 二（坊勢中学校）	2 3 番	やまもと ゆきこ 山 本 祐規子（花田中学校）
6 番	はまだ きょうか 濱 田 杏 佳（山陽中学校）	2 4 番	こばやし えりか 小 林 恵理佳（林田中学校）
7 番	あさの ゆき 浅 野 由 希（東中学校）	2 5 番	かとう ひとし 加 藤 人 識（灘中学校）
8 番	まつした ゆうだい 松 下 雄 大（書写中学校）	2 6 番	いけだ なみ 池 田 奈 美（飾磨西中学校）
9 番	いばら りょうが 茨 遼 河（琴陵中学校）	2 7 番	ぜんめい しの 善 明 詩 乃（置塩中学校）
1 1 番	やまもと しょうた 山 本 祥 太（菅野中学校）	2 8 番	うしお かなた 牛 尾 哉 太（城乾中学校）
1 2 番	いなば かなこ 稲 葉 加奈子（大白書中学校）	2 9 番	ほうのう ちはる 寶 納 千 晴（賢明女子学院中学校）
1 3 番	やすたけ ともまさ 安 武 知 将（夢前中学校）	3 0 番	ひわ たくや 檜 皮 拓 也（網干中学校）
1 4 番	くろだ ゆいと 黒 田 唯 人（広畑中学校）	3 1 番	うえの てんしろう 上 野 天士郎（神南中学校）
1 5 番	たむら あさひ 田 村 旭 陽（香寺中学校）	3 2 番	きむら まなや 木 村 愛 哉（白鷺中学校）
1 6 番	くぼた けんと 久保田 懸 斗（淳心学院中学校）	3 3 番	まつざき ちか 松 崎 智 香（飾磨東中学校）
1 7 番	はやし はるか 林 陽 香（安室中学校）	3 4 番	なかむら きょうすけ 中 村 恭 輔（城山中学校）
1 8 番	くらした かれん 蔵 下 華 蓮（東光中学校）	3 5 番	てらたに こうき 寺 谷 孔 希（高丘中学校）

事務局職員出席者

事務局 長	川谷 越	主 任	川嶋 秀一
次 長	鍵本 隆造	主 任	萱原 彰宏
調査課 長	北川 博之	主 事 補	石本 健二
議事係 長	藤原 誉	主 事 補	奥田 浩之

会議に出席した市長、職員及び委員

市 長	石見 利勝	環境局長	中澤 賢悟
副 市 長	石田 哲也	健康福祉局長	黒川 優
副 市 長	寺前 實	産業局長	北川 俊文
副 市 長	飯島 義雄	都市局長	川渕 良郎
代表監査委員	井神 暁	建設局長	後藤 竜一
教 育 長	中杉 隆夫	下水道局長	松本 孝明
生活審議監	河原 啓二	会計管理者	市岡 千弘
水道事業管理者	三木 隆道	消防局長	中川 勝正
市長公室長	内海 将博	姫路駅周辺整備 副本部長	兵頭 康
総務局長	平岡 護	危機管理 担当理事	岡村 卓治
財政局長	甲良 佳司	こども育成 担当理事	大原 耕造
市民局長	山下 雅史	観光・城改修 担当理事	釣 雅典

議 事 日 程

1 1月24日(日)

午後 1 時 開 会

○ 議長あいさつ

○ 市長あいさつ

○ 開 会

日程第1 議席の指定

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第3 会期の決定

日程第4 一般質問

○ 閉 会

○ 市長コメント

○ 副議長あいさつ

議長あいさつ

○杉本博昭議長

どうも皆さんこんにちは。

もう一回。皆さんこんにちは。

姫路市子ども議会の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。まずもって、子ども議員の皆さん、ようこそ姫路市本会議場にお越しをいただきました。心より歓迎を申し上げます。

さて、この子ども議会の開催にあたって、皆さんは議会の役割についていろいろと勉強してくれたと思います。この本会議場は、姫路市の予算や決算、大事な条例など、大切な事柄を決める場所です。そして、いつもは、皆さんが座っている席には、47人の議員が座っています。今日は皆さんが主役です。

そして、本番の議会と同じように、石見市長、3人の副市長、そして理事者の皆さんに出席していただきました。この議会までに皆さんが一生懸命考えてくれた質問や意見に対して、きちんと答えてくれるようお願いしたいと思います。

本当に、この中で今皆さんは緊張のピークにあるかもしれませんが、しっかりと自分の意見や思いが伝わるように、頑張ってもらいたいと思います。この子ども議会を機会に、皆さんが姫路市政のことや議会のことに少しでも興味を持ってくれたら大変ありがたいと思いますし、10年先、20年先に、皆さんの中から市会議員を目指そうという人が出てくれば、もっとうれしいと私は願っています。是非、この機会を大事にしていきたいと思います。

また、傍聴の皆さん、たくさんお越しをいただきましてありがとうございます。ウインクの同時中継もやっておりますので、是非この機会に、姫路市議会の活動、また、姫路市政により一層の関心を持っていただければ大変ありがたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

最後になりますが、この議会の開催にあたっては、保護者の皆様、先生方には深いご理解を

いただきました。また、石見市長様はじめ、姫路市職員の方々にも多大なるご支援をいただきましたことを、改めてお礼を申し上げたいと思います。今日は、皆さんにとって思い出深い一日になることを期待して、一言ごあいさついたします。頑張ってください。

市長あいさつ

○石見利勝市長（登壇）

皆さんこんにちは。

開会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、35名の子ども議会議員の皆さんが参加してくれました。ありがとうございます。

こちらに座っている我々を理事者と言います。この理事者たちが、道路のことや教育のことや公園の整備、街灯の整備、学校の耐震、いろいろな案を作ります。それを47人の議員の先生方が、それはおかしいと、もっとちゃんとやれと、反対にこっちもうちょっと、ちゃんとしたらどうやと。市民から入ってくる税金はこれだけやから、そのお金で一番にやることはこれやろというようなことを、議員の先生から厳しく注文を受けます。

そして、また、最近道路が傷んでいるけれども、理事者何しとんやというお叱りも受けます。そういうチェックを受けながら姫路市が運営されていく。ここは、その一番大事な場所でございます。

皆さんは今日、子ども議員として、その議員の立場に立って、我々にいろいろと注文をしていただく。皆さんにとっても大変よい経験になると思います。先ほど議長もおっしゃいましたが、これを機会に、勉強して姫路市政をチェックする立場、市議会議員を目指そうという方が出てくると大変ありがたいと思います。

皆さんご存知のように、姫路市は今、姫路駅前の整備を一生懸命やっている。全国のまちからいろんな人が来てくれるように、市の玄関の

整備を進めている。

さらに、来年は、姫路の生んだ軍師官兵衛がNHK大河ドラマになります。普通、侍というのは刀が強い、腕力が強い、腕力で戦うんですけども、この官兵衛という人は、腕力はたいしたことない。頭がいい。頭脳で勝負して、これまで戦って一度も負けたことがないんです。播磨の地が、そんな賢い、そして人間性豊かな人を生んだ。これは我々の誇りであります。来年、大河ドラマで官兵衛が放映される。楽しみにしております。皆さんも楽しんでください。そして、再来年には、いよいよ世界文化遺産姫路城が改修を終わって、美しい姿をあらわします。

そういうことでは、今も姫路にはたくさんの方が来られますけれど、来年以降、たくさんの方が姫路に来てくれる。そういう人たちを温かくお迎えして、そして姫路はこんなまちなんです、我々はこんな点で頑張っているんですけど、皆さんたちはどうですか。来られた皆さんの地域の歴史や文化に関心を持って、尊敬を払って、楽しい交流をしたいと、こういうことを希望しております、皆さんも中学生大使として、頑張ってください。

今日は、皆さんに思い出に残る1日になりますことを、それと、これは議会ですから、議会運営が円滑に進みますことをご祈念申し上げまして、あいさつとさせていただきます。どうもありがとうございます。

○杉本博昭議長

それではこの後、子ども議会を開会いたしますが、ここで、子ども議会の議長に、灘中学校加藤人識議員を任命し、議事進行をお願いしたいと思います。

加藤議長、議長席までお願いをいたします。

△午後1時9分 開会

○加藤人識議長

ただいまから、平成25年度姫路市子ども議会を開会します。

これより本日の会議を開きます。大津中学校石田峻馬議員から欠席の連絡がありましたのでご報告いたします。

これより日程に入ります。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程に記載のとおりであります。

日程第1

議席の指定

○加藤人識議長

まず日程第1、議席の指定を行います。

議席は議長において、ただいまご着席のとおり指定します。

日程第2

会議録署名議員の氏名

○加藤人識議長

次に日程第2、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、

広嶺中学校	角谷	巴菜	議員
坊勢中学校	森	丈二	議員
琴陵中学校	茨	遼河	議員

を指名します。

日程第3

会期の決定

○加藤人識議長

次に日程第3、会期の決定を議題とします。

お諮りします。

今回の子ども議会の会期は、本日1日間とし

たいと思います。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○加藤人識議長

ご異議なしと認めます。

よってそのように決しました。

日程第 4

一般質問

○加藤人識議長

次に日程第 4、一般質問を行います。

発言の通告に基づき、順次、議長から指名します。

登壇の上、ご発言願います。

1 番 広嶺中学校 角谷巴菜議員。

○広嶺中学校 角谷巴菜議員（登壇）

小学校入学のお祝いに防犯ブザーを。広嶺中学校 2 年 角谷巴菜。

近頃、テレビ、新聞でよく耳にしますが、罪のない人間が、全く関係のない人間に傷つけられるという事件が後を絶ちません。そんな社会だからこそ、小学校の登下校時にスクールヘルパーさんや父兄の方々パトロールをしてくださったりしています。

私には、小学校 1 年生の弟がいます。下校時、1 年生は町ごとにみんなで家へ帰ります。途中までは、みんなで帰れますが、最後にはどうしても一人で帰らなくてはなりません。大通りより、一本中の道に入ると、人も通らない道なのでいつも走って帰るそうです。なぜなら、一人では不安で怖いからです。

そこで要望として、小学校入学時に姫路市よ

りお祝いとして防犯ベルを配付してはどうかと思いました。現時点では、ブルーベリーの木を市より配布してもらっています。防犯ベルを携帯するから安心という訳ではありませんが、子どもたちみんなが携帯しているということが当たり前になれば、被害も減ると思います。

ほとんどの 1 年生が入学と同時に、防犯ベルを購入していますが、中にはない 1 年生もいるので、是非平等に安心できるように、姫路市より配布してはどうでしょうか。防犯ベルを配布することは可能かお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉教育長

広嶺中学校 角谷巴菜議員の質問にお答えをいたします。

角谷議員が、姫路市の子どもたちは、お父さんやお母さんをはじめ、多くの地域の方々の方によって見守られ、安全が確保されているということに目を向けられたことは、大変うれしく思います。

ただ、入学記念として何がもっともふさわしいのかということについては、今議員がおっしゃったように、防犯ベルをはじめ、ランドセルのカバーであったり、文房具であったりと、いろんな考えがあるところですが、姫路市では小学校の新 1 年生に対して、記念樹の成長と皆さんの成長を照らし合わせながら、大きく成長して欲しいという願いのもとで決定させていただいております。

したがって、防犯ベルやホイッスル、また防犯ライトなど、自分の身を守る個人的なものについては、校区や通学路の様子にあわせて、お家の方とよく話し合い、購入していただきたいというふうに考えております。

教育委員会といたしましては、身を守る防犯ベルを全入学生に配付することも、今後検討し

てみたいとは思いますが、現時点では、皆さんがブルーベリーの木とともに、将来への目標をきちんと見定め、多くの人に見守られながら立派な社会人へと育ててくれることを願っております。

なお、もっとも大切な安全面、皆さんの安全面に関しましては、元気に登校した児童・生徒たちを元気な姿で帰宅させるということは、学校として他のすべてに優先すべきことであるというふうに認識しておりますので、今後も、登下校の安全指導や安全教育の徹底を図るように、各学校や地域に引き続きお願いをしてみたいと考えております。

以上です。

○加藤人識議長

2番 豊富中学校 白倉紅葉議員。

○豊富中学校 白倉紅葉議員（登壇）

豊富中学校の白倉紅葉です。今から、豊富町の環境問題について質問します。

私の住む豊富町は、自然豊かで空気も澄んでいます。だから、毎年、近くの川で多くのホタルを見ることができていました。



しかし、最近では、年々見られる数が減ってきています。それは、夏の豪雨による水の増加やポイ捨てされたごみの増加などによる水質の悪化が原因だと思います。

私は、何度か川の清掃に参加したことがありますが、川の周辺の草刈りをしただけで、実際に川の中に落ちているごみや雑草などの処理は行いませんでした。その後も、川の様子は毎日見っていますが、川の水の中に落ちているごみなどを取り除くことはありませんでした。

いくら小さな川とはいえ、ホタルをはじめとする多くの生物のすみかとなっています。そん

な川をもう一度、多くのホタルを見ることができるよう美しい川へと戻すことは決して不可能なことではないと思います。

そのために、今、姫路市で河川の環境問題はどのように考え、取り組まれているのでしょうか。私たちも住民として、できることはやっていきたいと思っています。豊富町を昔のように、人間と生物が共存できるような美しい川に戻すために、市と私たちが協力してできることはないのでしょうか。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

松本下水道局長。

○松本下水道局長

豊富中学校 白倉紅葉議員ご質問の「豊富町の環境問題について」に、お答えいたします。議員が言われたとおり、私も住民の一人として、豊富町は自然豊かで山・川・田園が調和したすばらしい地域であると自負しております。ご質問の「姫路市の河川の環境整備はどのように考え、取り組まれているのでしょうか。」についてでございますが、「観光都市にふさわしい河川環境を姫路市全域で実現する」ためには、「全ての市民がポイ捨てをしない、させない、という美化意識を持ち、自らの行動を見つめ直していただく」ことが重要と考え、市役所や兵庫県が連携して、広報誌やチラシ、ホームページなどを活用して、さらなるマナーや美化意識の向上に努めているところでございます。

白倉議員の「住民として、できることはやっていきたい」というお気持ちは大変うれしく思います。姫路市では4月から6月の川溝清掃や12月に全市一斉清掃を実施し、白倉議員も参加していただいたように、多くの自治会や市民の皆様にも美化活動に参加していただいております。

また、今年度は、下水道局職員が自ら川に入り清掃活動を行いました。大きな河川の川底に

は思わぬ深みがある箇所や、鋭利な破片が落ちている箇所もあり、一般の市民の皆様には清掃活動をお願いすることが困難な場所も多く見受けられました。

今後は、進めていくうえで、自治会やボランティアなどの市民の皆様には協力をお願いする箇所と市役所などの行政が実施する箇所との区分を設け、様々な機会を通じて市民の皆様と話し合い、行政が一体となって、市民の皆様が参加しやすい支援策を考えてまいります。

河川にホテルをはじめとする生物が住める美しい河川環境を整備することと同時に、近年のゲリラ豪雨などの浸水被害対策としての河川整備も姫路市にとっては、非常に重要な使命と考えております。

このように『環境に優しい河川』と『災害に強い河川』を両立し、白倉議員が言われる“人間と生物が共存できるような美しい川”にもどすために、川に目を向けていただき川を大切にする取り組みを市民の皆様と一緒に進めていきますので応援よろしく願いいたします。

以上でございます。

○加藤人識議長

3番 四郷中学校 森あおい議員。

○四郷中学校 森あおい議員（登壇）

四郷中学校 森あおい。私は、姫路市政にお年寄りのための交通網を細かく整備することを要望いたします。お年寄りのための交通網とは、主に、バスの運行についてです。



私の家の近所にはお年寄りの方がとても多く、私自身も祖父母と一緒に住んでいます。その祖父母に何か困っていることはないかと話を聞いたところ、一番に言っていたのが交通の便が悪くなったことでした。

お年寄りは車の免許を持っていない人がたくさんいます。バスは、そんなお年寄りの大切な移動手段となります。ですが、私の家からバス停へは少し遠く、お年寄りの方なら、なおさら利用しづらい状態です。こんな地域は、他にもたくさんあるでしょう。

そんな中、私は「コミュニティバス」というバスが運行していることを知りました。コミュニティバスとは、大型バスではなく、ワゴン車を利用した乗合型のバスです。現在、実験運行も含め、姫路市内の数カ所で運行しています。コミュニティバスは、乗用車と変わらない大きさのため、今までの大型バスでは運行できなかった地域を運行することができ、より地域の人々が利用しやすくなっています。

そこで、現在数カ所でしか運行していないコミュニティバスを市内の多くの地域に広げたいです。そうすることで、姫路市が誰もが安心して暮らせる優しいまちに近づいていくと思います。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

川淵都市局長。

○川淵都市局長

四郷中学校 森あおい議員のご質問にお答えいたします。

コミュニティバスなどの地域公共交通の導入につきましては、車中心の交通体系から環境や人に優しい公共交通中心の交通体系への移行を目指し、平成21年4月に「公共交通を中心とした姫路市総合交通計画」を策定し、公共交通中心の交通体系構築に向けた取り組みを進めているところでございます。

議員ご指摘のとおり、徒歩で駅やバス停へのアクセスが困難な「公共交通の空白地」、また、空白地域ではないものの運行本数が極めて少なく、公共交通が非常に使いにくい地域の「公共

交通の不便地域」が姫路市の郊外を中心に点在しております。

この総合交通計画の中では、森議員のお住まいの地域を含む、市内のこのような地域の10地域をコミュニティバスなどの地域公共交通を優先的に検討すべき地域として取り組むべく、位置づけているところでございます。

本計画策定以降、これまでに香寺、家島、飾東、坊勢の4地域で社会実験を、ご承知のとおり、いずれも小型バスやワゴン車を用いて実施しております。

コミュニティバスなどの導入に際しましては、計画の段階から地域の皆さんと一緒に、アンケート調査の実施や運行方法、ルート、便数、料金などの運行計画の策定をしっかりと時間をかけつつ十分に検討し、具体的な目標を定め、まず、社会実験から行い、その効果を精査しながら本格的に運行するかどうかを決定しております。

今後、ますます高齢化が進展し、車を運転できない方がふえ続けることが予測されるなか、公共交通の重要性が高まることが予測されます。

このような課題を踏まえ、引き続き地域の皆さんや交通事業者と一緒に公共交通不便地域・空白地の解消に向け、議員ご提案の“自動車が運転できなくても誰もが安心して暮らせるまちづくり”を積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○加藤人識議長

4番 安富中学校 南山晴海議員。

○安富中学校 南山晴海議員（登壇）

安富中学校の南山晴海です。今から田舎の高齢化問題とその弊害について質問します。僕の住んでいる安富町は、姫路市の北部にあります。周りは山に囲まれていて、農地が広がっています。僕が質問したいことは、その農地が耕作放棄地になっていることです。耕作放棄地とは、

農作物が1年以上作付けされず、農家が数年のうちに作付けする予定がないと回答した農地のことです。

具体的に、僕が身近で聞いた話をします。近隣に住むAさんは、親が亡くなり、畑を受け継ぐことになりました。その畑は山の下にある小さな畑でした。Aさんは仕事をされていたので、その畑には、余り世話が必要のない野菜を育てようと思いました。しかし、何度挑戦しても山からおりてきたシカやイノシシに作物を食べられる被害にあったそうです。高齢化により、山の手入れが不十分なのでしょう。そこで、Aさんは、周りの人たちに畑の世話を頼もうと考えました。しかし、そこは高齢者の方ばかりで世話をしてくれる人がいませんでした。ここでAさんは、親から譲り受けたこの畑を耕作放棄地にするという結論に至ったそうです。

ここで問題なのは、このAさんのような人たちがふえ、田舎に耕作放棄地がふえているということです。特に、山間部の立地条件が悪い場所にふえてきています。市の方々は、高齢化の進む田舎において、山が荒れ、耕作放棄地がふえているという現状について、どのようにお考えなのかを伺いたいと思います。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

北川産業局長。

○北川産業局長

安富中学校 南山晴海議員のご質問にお答えいたします。

ただ今ご質問の中にもあったとおり、全国的に農家の高齢化や後継者不足が進んでおり、それに合わせて耕作放棄地もふえております。



平成 21 年に行った統計調査では、姫路市内に主に農業に従事した農家のうち 65 歳以上の高齢者が占める割合は 74%、市内の耕作放棄地の面積は甲子園球場の約 110 個分に相当する 448ha となっています。このように、農業を取り巻く状況は大変深刻であると考えています。

そこで、個々の農家では手に余る問題については、地域で営農組織を立ち上げて、農作業を共同で行ったり、田植機やトラクターなどを共同で使用したりして、地域の農業を地域の人たちの協力のもとに守っていくという取り組みを応援しています。

また、意欲ある農業者に農地を集めて、農業の大規模化・効率化を進めて、若い人で農業を志す人には特に生活給付金を支給するなど手厚い支援を行っています。

さらに、農産物をそのまま販売するだけでなく、ジャムや漬物など加工品にして直売所などで販売する農業の 6 次産業化にも取り組んでいます。

6 次産業という言葉は初めて聞かれたかもしれませんが、これは農業の第 1 次産業に加工の第 2 次産業、販売の第 3 次産業を組み合わせた新しい考え方ですので、是非覚えておいてください。

その良い例として、安富町では、特産のゆずを使って、ゆず大福、ゆずマーマレード、ゆずシロップなど新しい商品が次々と開発されています。

これらの活動が農山村での優秀な取り組みであると評価されて、平成 21 年度には、安富のゆず組合が農林水産大臣表彰を受けられました。

また、シカ・イノシシの対策についてですが、これについては、なかなか決定打がありませんが、地域、行政、猟友会がそれぞれ連携して取り組んでいくことが大事というふうに考えております。

これからも、市内の農業がもっともっと元気になるよう努力していきますが、南山議員のような特に若い人たちが一人でも多く農業に関心

を持ってもらうことを期待しています。

以上です。

○加藤人識議長

5 番 坊勢中学校 森丈二議員。

○坊勢中学校 森丈二議員（登壇）

僕が質問事項として挙げさせていただくのは、部活動におけるスクールボートの使用条件の緩和についてです。



僕が、これについて質問するのには理由があります。その理由は、僕たちの坊勢中学校は坊勢島という島の中にあり、部活動の大会や練習試合の際に、必ず船を使うからです。隣の島の家島中学校に行くときでも必ず船を使います。

この船を使うときには、必ずお金がかかってしまいます。このお金が安ければ良いのですが、行って帰らなければならないので、すごくお金がかかります。大体往復で一人 1,500 円以上はかかってしまいます。部員 20 人以上の所では、全体で 3 万円以上かかってしまいます。

僕は、バスケットボール部に所属していますが、3 万円もあれば、新しいボールやゴールのネットなどもいろいろ買えます。だけど、今では、お金をたくさんかけて、大会や練習試合をやっています。なので、部活動におけるスクールボートの使用条件を緩和してもらい、少しでも部活動の環境を整えてほしいと思います。

スクールボートの使用条件は、平日と土曜日の午前中のみとなっています。また、中体連の開催する試合のみとなっています。大会は土日にあるため、行きは良くても、帰りはスクールボートの使用ができず、費用がかかります。また、スクールボートは 1 台しかなく、家島中学校とも共有して使用しています。一つの中学校で独占するわけにもいかないのです、使用が認め

られている大会でも、使用することが難しいことが状況です。

部活動では、他校との練習試合や合同練習が、技術や力の向上に欠かせないと思います。そのような公式戦以外での練習試合等での使用やスクールボートの台数をふやすなどの対策を取っていただければと思います。僕たちも、部活に、より力を入れたいとの気持ちがあります。

以上のことについてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉教育長

坊勢中学校の森丈二議員の質問にお答えいたします。

森議員はバスケットボール部に所属されているということですが、部活動は、皆さんがスポーツ、文化、科学などの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する場であり、また、部活動を通して、責任感や連帯感を学び、互いに協力し合って友情を深めることのできる大事な活動であると考えています。

現在、部活動では、家島地域から市の大会などに出場する場合などにスクールボートを利用できますが、部活動以外にも、中学校や小学校、幼稚園の学校行事においてスクールボートを利用しています。

ただ、このスクールボートは、スクールバスと同じように遠距離通学や、島と島の間には他の交通手段のない児童・生徒の通学に対して運行するというものが本来の使い方です。この点、家島では、地域の特殊性に配慮し、現在は学校行事や部活動でもスクールボートを利用いただいているところでございます。

その中で、スクールボートの運航には、定期船の発着時間との調整や、救急艇など他の船との間で、操縦する船員さんの調整などの制約がある中で、スクールボートをできるだけ円滑に

運航できるように考えた結果、現在のような利用基準で運航しているところです。

また、新しいスクールボートの建造や、それを維持・管理していくには、大きな費用が必要となることから、スクールボートをふやすことも難しい状況です。

しかし、部活動に対しましては、県大会以上の出場について旅費や宿泊費などの経費を負担したり、また、学校の先生以外にも、部活動を指導してもらう先生をお願いするなどの支援を行っております。今後も、皆さんの部活動がより充実した活動となるように応援したいと考えていますのでご理解よろしく申し上げます。

以上です。

○加藤人識議長

6番 山陽中学校 濱田杏佳議員。

○山陽中学校 濱田杏佳議員（登壇）

山陽中学校の濱田杏佳です。今から、高齢者が働くことのできる仕事と、その働く高齢者へのサポートについて質問します。



先日、私は、「生涯現役社会」という言葉に出会いました。この言葉は、健康・自立・活動という三つの要素があり、今回はこの中の「活動」に目を向けました。

現在、日本は少子高齢社会です。この先、若い人たちだけで将来を担っていくのは負担も大きいと思われます。高齢者の方々は、人生経験も豊富で、持っている技術や知識も多いと思われます。定年を迎えて家でゆっくり過ごされるのもよいと思います。しかし、せっかく元気なら、高齢者の方が働くことのできる場を見つけたり、そこで、自分の技術や知識を発揮し、地域に貢献するのも一つの手だと思います。そのためにも、高齢者の方々みずから「働きたい」

と思えるような仕事の場を提供し、また、働くこと以外でも、地域とのコミュニケーションをとることのできる場を設けることが必要だと思います。そのような場で、地域での伝統行事、工芸品、戦争体験などをこれから先の世代へと受け継いでいけたらよいと思います。

このように、地域社会とのコミュニケーションをとることで、いつまでも生き生きとした生活を送り、幅広い世代の人たちが知恵を出し合い、お互いに支え合うことで、よりよい社会を築いていきたいです。生涯現役社会を目指していく中で、現在、姫路市ではどのような政策、サポートが実施されていますか。また、どのような仕事で高齢者の方を受け入れることができますか。

以上の質問にお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

山下市民局長。

○山下市民局長

山陽中学校 濱田杏佳議員のご質問にお答えをいたします。

姫路市では誰もが生涯にわたって、健康で自立した生活を送りながら、目的を持って生き生きと活動することができる「生涯現役社会」の実現を目指しております。

その取り組みの一つに「生涯現役人材バンク」という制度があります。これは長年培ってこられた知識や経験、技能をお持ちの高齢者の皆さんとその能力を活用したい市民を結び付ける制度です。現在、126 の個人・団体の方々がこの「生涯現役人材バンク」に登録をされ、健康体操、ウォーキング、絵画、書道などの指導から、竹細工やしめ縄などの伝統工芸品づくり、地域の歴史案内までさまざまな分野で能力を発揮し、ご活躍をいただいています。

ほかにも、公益社団法人のシルバー人材センターでは、働くことを通じて高齢者が生きがい

を得られるよう、掃除や植木の剪定、施設の管理など働く機会の提供を行っており、姫路市はこれに対して補助金を出しています。

また、60歳以上の方々に組織されている老人クラブはそれぞれの地域で教養・文化活動を行ったり、高齢者の経験を次の世代へ伝えるための地域交流行事を開催されたりしております。このような行事は、高齢者と地域にお住まいの方々との交流・連携を一層深めていただけるよい機会ですので、姫路市も助成金を出すなど、支援をしています。

今、日本は高齢社会から超高齢社会に入っております。さらに少子化も進んでいくと、社会の担い手が少なくなっていくと予測されます。

このような状況の中、濱田議員がおっしゃるとおり、高齢者の皆さんが社会とつながりを持ち、豊かな知識や経験を生かして社会の担い手として活躍することで、社会全体の活性化につながりますので、今後も生涯現役社会の実現に向けたさまざまな取り組みを進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○加藤人識議長

7番 東中学校 浅野由希議員。

○東中学校 浅野由希議員（登壇）

「軍師官兵衛」を機に、全国への的確なアピールを。東中学校 浅野由希。

私のいとは横浜に住んでいます。そのいとは、「姫路市

と言えば。」と聞くと、「姫路城。」と返ってきます。確かに美しく、雄大なお城だと思います。

でも、私としては、東中の校区内にある小さいころから見てきた御着城を応援したいです。そのために大事なものは、姫路市は姫路城だけではないという全国への的確なアピールだと思い



ます。

姫路市では、大河ドラマ館ができたり、イラストコンテストが行われたりと、ナイスアイデアな催しがたくさんあることを知っています。

では、全国に対してでは、どのような催しがありますか。軍師官兵衛による姫路市アピールが一番わかりやすくできるのは、やはり、ドラマを見てもらうことだと思います。でも、見てもらわないと意味がありません。伝わりません。ツアー、キャンペーンなど、これでもかというほどPRすれば、「あまちゃん」や「半沢直樹」のように、ブームを起こせるはずですよ。

人は流行やブームには驚くほどに敏感です。姫路市への注目を集め、姫路市のすばらしさを自慢するように、沸騰するように熱い思いで、日本列島に「黒田官兵衛ブーム」を巻き起こしてみたいと思います。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

石田副市長。

○石田副市長

東中学校 浅野由希議員の質問にお答えします。

いよいよ来年1月5日に大河ドラマ「軍師官兵衛」の第1回の放送が始まります。そして、翌週の1月12日には、「ひめじの黒田官兵衛大河ドラマ館」がオープンいたします。このドラマ館は、日本中で姫路だけに建設するということもあり、全国の旅行会社や新聞、テレビなどのマスコミから、今、姫路が大きく注目をされています。

また、民間で商売やものを作っておられる方々の間では、官兵衛に関するお菓子やグッズなどの商品を、どんどん開発されたり、官兵衛関連の商品を扱うアンテナショップが、今月末にオープンを予定しているなど、大きな盛り上がりを見せています。

姫路市では、黒田官兵衛の放送は、本市の観光振興にとって、最大のチャンスと考えており、「姫路生まれの黒田官兵衛」を全国的にPRするため、全力でさまざまな取り組みを進めています。

具体的には、東京や横浜でのキャンペーンや、旅行会社に対して官兵衛ツアーを企画するようお願いしたり、バスの車体へのラッピング広告、電車の駅や高速道路のサービスエリアにポスターを貼り出してもらったり、パンフレットを配るなど、PRを展開しています。

また、マスコミに対しては、官兵衛や姫路を題材に番組を作成していただくよう積極的に働きかけ、全国に姫路の魅力を発信できるよう取り組んでいます。

今後も引き続き、いろいろな雑誌などにドラマ館などの情報を載せてもらったり、あらゆるメディアを活用して全国に情報発信し、浅野議員のご提案のとおり、日本中が沸騰するような「黒田官兵衛ブーム」、「ひめじの黒田官兵衛ブーム」を巻き起こしていきたいと考えています。以上です。

○加藤人識議長

8番 書写中学校 松下雄大議員。

○書写中学校 松下雄大議員（登壇）

書写校区全体で避難訓練を実施すること。書写中学校2年 松下雄大。

最近、東日本大震災をはじめとして、京都嵐山では大きな



水害が起きました。また、伊豆大島では台風の影響で土砂崩れが起き、多くの方が命を落としました。二級河川である夢前川や菅生川を擁する書写としても他人事ではありません。また、校区内にはたくさんのがけもあります。

そこで、私はもしものときのことを考えて、

書写校区全体で避難訓練を実施することを提案します。

今、避難訓練というのは学校や職場などで実施されています。しかし、お年寄りや小さな子どもたちには実施できていませんから、もしものときに迅速に正しく行動できるとは限りません。こういったことを防ぐために、一度、もしものときを想定して、避難所である書写中学校に集まる訓練をしたいと思います。

人のつながりが薄くなったといわれる今、ご近所さんと顔を合わせ、どういう人達がいるのかを知ることはとても大切なことだからです。また、地域の人々全員が安全に避難できると安心な暮らしにつながり、書写をもっとよりよいまちにすることができます。

そして、来年には姫路を舞台とした「軍師官兵衛」が始まります。書写山の圓教寺は、黒田官兵衛ともゆかりが深く、テレビの撮影がありました。「軍師官兵衛」が放送されれば書写に訪れる観光客の方々がふえてきて、姫路はとてよいまちだと全国に発信することができます。

以上の理由から、書写校区全体で避難訓練を実施するのはどうですか。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

岡村危機管理担当理事。

○岡村危機管理担当理事

松下雄大議員のご質問についてお答えいたします。

本市では、阪神・淡路大震災を教訓に平成13年度から、市内全域において、さまざまな世代が参加する避難訓練と避難所運営訓練を小学校区単位で実施し、平成23年度からは、南海トラフ巨大地震を想定した津波避難訓練を実施してまいりました。

これらの訓練は、地域の住民の連携の強化と一時避難所での安否確認、安全な避難経路等の

確認を目的としており、災害による被害を少なくするには、住民一人ひとりがみずから取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や県、市などが取り組む「公助」の三つがそれぞれ重要だと言われております。

議員お示しの中でも、住民同士が協力して助け合う「共助」は、地域のコミュニティのきずなの力が防災力として、特に重要とされております。

市内の各地域は、祭りなどの地域行事が盛んで、祭りを通じた地域コミュニティのきずなが強固であります。

議員お住まいの書写におきましても、国の重要文化財に指定されている書写山圓教寺があり、季節を通じた祭りが盛んであり、地域コミュニティのきずなが非常に強固であります。

現在は、東坂などの自治会単位、小学校区単位で防災訓練が実施されております。今後、書写中学校区におきましても、地域を守るための防災訓練が実施される場合は積極的に参加していただきますようお願いし、防災の輪が一層広がるように努力してまいります。

以上でございます。

○加藤人識議長

9番 琴陵中学校 茨遼河議員。

○琴陵中学校 茨遼河議員（登壇）

琴陵中学校の茨遼河です。

今からプロ野球の試合やJリーグの試合ができるようなスポーツ施設の建設は可能ですかということについて、質問をします。

現在、姫路市にはプロ野球やJリーグの試合ができるようなスポーツ施設がありません。

もし、そのような施設を建設することができ



たなら、プロ野球やＪリーグの試合を見に来た多くの観客の人たちが、姫路城を中心とした姫路市の観光地を訪れることができ、さらなる姫路市の経済の活性化にもつながると思います。

また、姫路市に住んで子どもたちにとって身近にスポーツを楽しめる施設があると、スポーツに関心を持ち、学校の部活動にも入部する人もふえ、部活動を通して礼儀や作法などを学び、生活態度や授業中の態度も変わり、積極性のある人材が育ち、規律ある学校が姫路市内でもふえていくと思います。

プロ野球の公式戦やＪリーグの試合を見ることができれば、野球やサッカーをしている少年少女たちは、プロの選手のプレーを間近に見ることができ、その後の競技生活に関するモチベーションも上がることは、間違いないと思います。

それに関連して、本格的な競技場や球場の近くに合宿ができる宿泊施設を併設すれば、他の都市からの利用者も一層ふえて姫路市の活性化にもつながると思います。

その上、各施設を開設することにより、地元の人々を雇用することができることとなります。

施設の候補地は、林田町や船津町などが適していると思います。なぜならば、そのような施設を誘致することによって郊外の地域がさらに活性化すると思ったからです。

以上についてお答え下さい。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

山下市民局長。

○山下市民局長

琴陵中学校 茨遼河議員のご質問にお答えします。

プロ野球やＪリーグの開催は、青少年をはじめ、市民の皆さんにとって非常に有意義なものであり、姫路市の活性化にもつながるものと考えております。

姫路市では、26のスポーツ施設を設けており、このうち、野球のできる施設は14施設、サッカーのできる施設は8施設あります。

これらの施設のうち、現在リニューアル中の「姫路球場」は、プロ野球球団のホームスタジアムと比較すると小規模ではありますが、プロ野球公式戦が開催できます。来年3月には、改修の完了を記念して、公式戦ではありませんが、プロ野球のオープン戦を週末に開催する予定ですので、ぜひ見に来ていただきたいと思います。

また、サッカーでは、「陸上競技場」において、Ｊリーグのチームも出場するサッカーの天皇杯予選が開催されていますが、グラウンドの広さや、観客席の規模からＪリーグの公式試合を開催することはできません。

Ｊリーグが開催できるような施設を郊外に新たに建設するには、広大な用地と多額の建設費・維持費に加えて、交通アクセスの整備などが必要になります。

そのため、現在、施設を建設する計画はありませんが、今後市民の皆さんの応援を受け、Ｊリーグのチームが誕生するような場合には、全市的な課題として検討することが必要となるものと考えています。

野球、サッカー以外では、女子バレーボールについて、毎年Ｖリーグの試合を中央体育館で開催しておりますし、今年9月には姫路市出身の眞鍋政義監督率いる全日本チームの合宿を誘致しました。

一流のアスリートのプレーを間近に見ることは、茨議員のおっしゃるとおり、スポーツへのモチベーションを高め、競技力の向上、スポーツ活動を通じた人間形成、さらには観光、経済の活性化などに効果があり、その意義は大きなものがあります。

今後、「魅力あるスポーツのまち姫路」を目指して、各種スポーツ施設の整備や一流のスポーツイベントの誘致、開催に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

以上でございます。

○加藤人識議長

11 番 菅野中学校 山本祥太議員。

○菅野中学校 山本祥太議員（登壇）

菅野中学校の山本祥太です。

今から「2 列走行をなくし、安全に通学するための自転車レーンの設置」について質問をします。



僕の住んでいる菅野校区は南北約 10 キロメートルあり、とても広いです。そのため生徒の約 8 割の人が自転車通学をしています。その中で年に 1 回ぐらい交通事故が起きています。また、2 列、3 列になって登下校をしていてとまっている車にぶつかるということもありました。僕も 1 年生の時に 2 列で走行していて隣を走っていた人にぶつかりそうになり、ドキッとしたこともありました。

学校では 1 列で走行するよう注意されているし、僕たちが注意すれば防げることです。僕も安全運転しようと思っていました。

しかし、どんなに気をつけていても交通事故は起きてしまいます。出会い頭や自動車のほうが危険な運転をしてしまうということもあります。これらを防ぐためには、自転車レーンを設置したらよいのではないかと思います。予算的には難しいかもしれませんが、命より高価なものはありません。一度に全校区全部でなくても、自転車通学者が多い地区や交通事故がよく起きているところから、せめて自転車優先区域を設置してもらえればと思います。

以上についてお答え下さい。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

後藤建設局長。

○後藤建設局長

菅野中学校 山本祥太議員の質問にお答えいたします。

自転車は、環境にも優しく、手軽で健康にも良い移動手段として注目されておりまして、利用者が年々ふえております。

そこで、姫路市では、自転車と歩行者が安心して通行できる安全な道づくりを推進するため、「やさしい歩道づくり事業」と位置付けて、兵庫県と共同で歩道の整備に取り組んでおります。

具体的には、歩道に自転車の通行部分を示す白線を引き、「自転車マーク」や「案内看板」を設置し、自転車と歩行者の通行エリアの分離を進めております。これは、姫路駅の南、駅南大路で実施しております。

また、歩道のない道路では、道路の端であります路肩を緑色などで着色し、自動車と自転車、歩行者の通行エリアのすみ分けを行い、それぞれがお互いの存在を意識できるような対策を進めております。これは、英賀保地区をモデル地区として実施しております。

さらに、道幅が広く余裕のある道路では、山本祥太議員ご提案のとおり、車道の一部に自転車が専用して通行できる「自転車レーン」の整備を今年度から進める予定でございます。

これからも事故がよく起こる場所や自転車利用が多い通学路などから自動車、自転車、歩行者それぞれが安全に通行できるような工夫を行っていきたいと考えています。

また、道路の整備に加え、車を運転する人、自転車に乗る人、歩行者のそれぞれがお互いを気遣い、交通ルールを守ったり自転車利用マナーの向上に努めていくことが交通事故の防止にもつながるものと考えております。

最後になりましたが、「予算的には難しいかもしれませんが、命より高価なものはありません。」という山本祥太議員の言葉を胸に刻んで安全な道づくりに取り組んでいきます。

以上です。

○加藤人識議長

12 番 大白書中学校 稲葉加奈子議員。

○大白書中学校 稲葉加奈子議員（登壇）

大白書中学校 2 年
稲葉加奈子です。



私は毎日、学校まで約 2 キロの道のりを友達と徒歩で通学しています。朝の通学時は通勤の車や自転車なども多く、またいつきに登校する生徒が重なることもあり、歩いていると車と接触しそうになり、危ないなと思うことがあります。通学時に、なるべく危なくならないように、歩道があるところは歩道を通るように、また、歩道がない所は、車が余り通らない道を考えて通るようにしています。

けれども、学校の近くになると、学校に入っていく道は当然一つしかなくなってきます。特に、学校の前の道は住宅地に沿っている道で、特に歩道はありません。通勤の車は対向車などがあり、車がすれ違うときなどは車が道路の大部分を占め、さらに道の脇には溝があり、歩行者はすごく狭い道を通らなければなりません。

特に雨の日などは、傘を差しているのととても大変です。もちろんそのような時は、友達と縦一列になり、徒歩通学生、自転車通学生ともに道に広がるなどせずに気をつけて通行しています。自転車を降りて歩く人もいます。

道幅は決まっており、歩道の設置は難しいとは思いますが、ラインなどを引くなどして歩行者および、車が通るところを意識するなどの何らかの安全対策はとれるのでしょうか。

以上についてお答え下さい。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

後藤建設局長。

○後藤建設局長

大白書中学校 稲葉加奈子議員の質問にお答えいたします。

通学路の安全対策は、姫路市でも重要な課題として取り組んでおります。特に、昨年の春に京都府亀岡市で大きな事故があったことを受けまして、市内の小・中学校で通学路の緊急点検を実施いたしました。

この調査の結果に基づき、危険な箇所からその対策に乗り出しています。具体的には、ガードレールなどの防護柵の設置や通行幅を広げるための側溝のふたがけなどを行いました。また、歩道のない道路では、稲葉議員が提案されておりますように、ドライバーに注意を促すような安全対策として、道路の端である路肩を緑色などで着色したり、ライン等を設置したりするなど、自動車と自転車、歩行者、それぞれが互いの存在を意識できるような対策を進めています。

さらに、学校の P T A や地域のボランティアの方々、警察などと連携を取りながら、通学路の変更も含めた安全確保に努めています。また、危険な場所につきましては、学校にお知らせしたり、児童、生徒の皆さんに対しての交通安全教育も実施しております。

稲葉加奈子議員の言われるように、歩道を新しくつくることは簡単ではありませんが、これからも、警察や学校関係者と協力しながら、通学路の安全を確保するための工夫や整備を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○加藤人識議長

13 番 夢前中学校 安武知将議員。

○夢前中学校 安武知将議員（登壇）

夢前中学校 安武知将。

カーブミラーについて質問します。

僕は、母と買い物に行ったとき、小さな子どもやご老人が、道路の脇道から急に飛び出してきて、冷やっとしたことが何度もあります。そ

こには必ずといっていいほどカーブミラーがありません。僕は、カーブミラーがあれば、どれほど安全に過ごせるだろうといつも思っています。



僕はまだ、カーブミラーがないことで事故にあったことはありません。ですが、いつ、どこで事故が起こり負傷者が出るかわかりません。事故が起こってからでは遅いのです。だからこそ、一刻も早いカーブミラーの設置をお願いします。

カーブミラーのことでもう一つ疑問に思うことがあります。それは、人や車が余り通らない場所にカーブミラーが設置されていることです。対して、先ほど述べた、道路の脇道で人や車がよく通る場所にカーブミラーの設置数が少ないのはどうしてなのでしょう。必要のない場所よりも、必要な場所に必要な数のカーブミラーの設置をお願いしたいです。

例えば、ごみ問題の場合、僕たち一般市民でも地域でクリーン作戦を行うことで解決できると思います。ですが、カーブミラーの設置は僕たちだけでは不可能です。市のレベル、県のレベルで考えていただかなければカーブミラーの数はふえないのです。

そこで、カーブミラーの設置数や設置場所について、どのように決定されているのか。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

後藤建設局長。

○後藤建設局長

夢前中学校 安武知将議員の質問にお答えいたします。

議員のご質問にありますように、見通しのよ

くないことが原因で、事故を引き起こす危険性が高い交差点などにつきましては、カーブミラーの設置が必要となります。

姫路市におきましては、行政と地域住民の皆さんが一体となって交通安全に取り組むことが重要であると考えおります。そのため、春と秋の年2回の交通安全総点検として、警察、姫路市、学校、自治会などの参加により、通学路などをはじめ、道路上の危険な箇所の点検を行っています。

その結果を踏まえまして、カーブミラーの設置などを実施しております。

また一方、私達、姫路市が、気づかない危険な交差点や見通しの悪い交差点を地域の皆さんから教えていただき、自治会の要望として、カーブミラーを設置することもございます。

姫路市では、このような点検による設置や要望による設置を含めて、年間で約100基のカーブミラーを新設しておりまして、現在では市内で約6,700基のカーブミラーを設置しております。

人や車がたくさん通っていても見通しのよい道路や交差点では、カーブミラーを設置しないこともあります。また、個人のわき道から人が飛び出してくるような箇所ではカーブミラーは設置しておりません。と言いますのも、県や市が管理する公の道路の交差する危険な場所に原則として設置しているのです。

また、安武議員ご指摘のとおり、人や車の少ない所にカーブミラーがあるのは、過去に事故が多発していたり、死角になって見えにくい場所であったりすることから安全対策として設置されているものと考えられます。

今後におきましても、道路を利用する地域の方々とともに、誰もが安心して通行できる道路づくりに取り組んでいきたいと考えております。

○加藤人識議長

14番 広畑中学校 黒田唯人議員。

○広畑中学校 黒田唯人議員（登壇）

広畑中学校の黒田唯人です。

今から軍師官兵衛の放映の際に、姫路市が行うPR活動について質問します。

来年の1月から姫路市を舞台とした大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映が始まります。

また、再来年の春頃には平成の大改修を終え、より一層美しくなった姫路城が、再び姫路の町に姿をあらわします。

これらの影響により、外国人観光客やドラマの舞台地を巡るツアーなど、国内外からの観光客が大変ふえると思われます。これは、姫路をもっと深く知ってもらい、絶好のアピールチャンスだと思います。

今が、城だけが姫路ではないことを、全国に、いや、世界中に発信するときだと思います。

その案として、姫路の名物や名所をまとめた動画をつくったり、城下町の季節ごとの風景をホームページなどで紹介したらどうでしょうか。姫路のいいところを見てもらうことが姫路を訪れてもらうことにつながると思っています。

姫路にとって、とても忙しく、また、とても大切な時期が始まりますが、現在、姫路市としてどのようなPR活動を行っていますか。また、今後行っていく予定ですか。

以上について、お答え下さい。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

釣観光・城改修担当理事。

○釣観光・城改修担当理事

広畑中学校 黒田唯人議員のご質問にお答えをいたします。

姫路市を訪れる観光客は、姫路城へのリピーターが多いのですが、来年の大河ドラマ「軍師



官兵衛」の放送期間中、また、再来年の姫路城の再オープンの際には、リピーター以外の新たな姫路への観光客がたくさん来ていただけるものと期待をしております。

ご提案いただきました姫路の名所や名物の動画や写真などは、非常に有効なPRの手段でございます。そのため、姫路市のホームページにあります「ひめじ動画チャンネル」では、観光施設やイベントの動画や写真をご覧いただけるようにしておりますが、今後もさらに充実をしております。

さらに、官兵衛をテーマにまちを盛り上げるため、JR姫路駅から姫路城までの間、大手前通りも商店街も、ひめじ勘兵衛プロジェクトの色鮮やかなのぼりでいっぱいになり、賑やかな雰囲気をつくっているところでございます。

全国へのPRにつきましては、全国の大都市で「かんべえくん」や「しろまるひめ」がPR隊長として多くのイベントに参加するため、全国を走り回っているところです。

今後も、テレビや新聞を活用してPRするとともに、官兵衛に関係するフェイスブックやツイッターを盛り上げるなど、積極的なPRを続けていきます。

そして1年半後に予定をしております姫路城のリニューアルオープンに向けましては、日本だけではなく世界から多くの方々に来ていただけるよう、魅力的なPRを引き続き続けてまいります。

以上でございます。

○加藤人識議長

15番 香寺中学校 田村旭陽議員。

○香寺中学校 田村旭陽議員（登壇）

香寺中学校の田村旭陽です。今から防災教育について質問します。

僕は、地域・自治体で、災害が起こったことを想定した防災教育を、もっと徹底的に指導してほしいと思います。なぜなら、現在、学校で

習っている防災知識だけで、災害時に本当に自分の身を守ることができるのか心配だからです。普段している避難訓練だけで災害時に本当に避難することができるのでしょうか。



僕は、二年前に起きた東日本大震災から、さまざまなことを学びました。最も強く心に残っているのは、災害時に僕と同じ中学生がとても活躍していたことです。彼らは、簡易トイレをいち早く設置したり、被災者に支援物資を配ったりと、自分たちができることを考えて行動していました。

なぜ、彼らが戸惑うことなく行動できたのか。それは、彼らが普段から、災害時のことを想定して、簡易トイレの設置の仕方や、支援物資の配り方などを授業で訓練していたからです。避難場所が学校になっているので、いち早く行動できるのは僕たち中学生なのではないでしょうか。

そのために、災害時に中学生一人でも、避難や救助ができるようになるような防災教育を、もっと授業で徹底的にしてほしいと思います。災害時に、復興への最初の一步を踏み出すことができるのは、僕たち中学生なのです。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

岡村危機管理担当理事。

○岡村危機管理担当理事

香寺中学校 田村旭陽議員のご質問について、お答えいたします。

田村議員が、防災教育に関心を持ち、さらに災害時には自分たち中学生が率先して、活動の担い手となることの大切さを考えられていることに大変うれしく、また、誇らしくも思います。

先の東日本大震災では、釜石の中学生は、その避難行動や避難所の運営において大きな力になるなど「釜石の奇跡」として、テレビなどで報道されていました。しかし、その生徒たちの行動については、「奇跡」ではなく、防災教育や訓練の積み重ねであったことは皆さんもよくご存じのことと思います。

防災教育では、防災に関する知識を理解するだけではなく、近い将来予想される災害に対して適切に行動できる判断力や行動力を身につけることも大切なことです。

これらを踏まえ、本市の学校教育では、皆さんの発達段階にあわせて、関係のある教科や総合的な学習の時間など、あらゆる学校の教育活動の中で計画的、継続的に防災教育を進めております。

田村議員ご指摘のように、「自分の身は自分で守る」という自助の力だけではなく、他人を思いやる心やお互いに助け合うという共助の力を身につけることも重要です。そのためにも、学校だけではなく、家庭や地域と連携した実践的な教育が重要であると考えております。

地域の自主防災会でも訓練や研修などを実施しておりますので、積極的に参加していただき、防災の知識や災害に対して適切に行動できる能力などをぜひ身につけていただきたいと思います。

また、危機管理室におきましても、中学生を対象に次世代の防災の担い手を育成するため、防災スクールを毎年実施しております。今年度は1月の19日に姫路市防災センターで実施いたしますので、ぜひ参加していただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○加藤人識議長

16番 淳心学院中学校 久保田懸斗議員。

○淳心学院中学校 久保田懸斗議員（登壇）

淳心学院中学校の久保田懸斗です。今から市

の介護施設について、質問をします。

現在、姫路市の人口は約 53 万人、その中で 65 歳以上の市民は約 12 万人、およそ全体の 20% を占めています。そして、さらに 10 年たつと 65 歳以上の市民は市全体の人口の 3 割に達する予想で、姫路市は将来、深刻な高齢化社会に陥ることでしょう。

その中で必要となってくるのは、高齢者を手助けする介護施設です。ところが、現在の特別養護老人ホームには、延べ 8,700 人もの高齢者が待機状態となっています。老人ホームに入れない方は、身内に助けを求め、老々介護等、家族の負担も大きくなっていきます。僕の家族も認知症である祖母の介護が大変忙しく、母も疲れてしまい、これからどうしようかと迷っています。老人ホームの不足という大きな問題を解決するには、やはりそのような介護施設を拡大・充実していく以外には手はないでしょう。もちろんこのような施設をつくるために当たっては姫路市民、又は姫路市の財政に経済的な圧迫が加えられるデメリットも避けては通れません。ですが、高齢化が進む一方で、この問題を放っておくと、より深刻な問題になっていくでしょう。僕は、高齢者の方々自身が満足できる老人ホームが必要だと思います。介護施設を拡大し、充実することで、家族の方も老人の方も、安心して生活を送れることが、一番求められていることだと考えます。

市は介護施設の充実について、今の現状を踏まえてどのような対策をとろうとしているのか、また、どういうふう考えているか。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

黒川健康福祉局長。



○黒川健康福祉局長

淳心学院中学校 久保田懸斗議員のご質問にお答えをいたします。

姫路市では、高齢者の方々が生きてきた地域で、健康で生き生きと安心して暮らすことができる社会づくりを目指して、「高齢者保健福祉計画」及び「介護保険事業計画」を 3 年ごとに策定をいたしております。

この「介護保健事業計画」では、介護が必要になった高齢者を社会全体で支えるという考え方にに基づき、地域の皆様の見守りなどのご協力により、住み慣れた地域で介護を受けながら生活が続けられるよう支援をしていくということを基本理念といたしております。

しかしながら、議員ご指摘の介護施設に入所を希望する待機者の状況や、そのご家族の負担を考えますと、自宅では介護が難しい方々のための施設をつくることも必要です。このため、平成 24 年度から 26 年度を計画期間とする第 5 期「介護保険事業計画」では、特別養護老人ホームについて、第 4 期の計画に比べて 3.5 倍になる 477 人分を整備するなど必要な施設整備を進めているところでございます。

ただ、議員ご指摘のとおり、24 時間の対応ができる介護施設でのサービス費用は、自宅での介護に係るサービス費用よりも高額になることから、市民の皆様方の負担や、市の財政への影響が懸念されますので、来年度、策定予定の第 6 期「介護保険事業計画」において、在宅での介護サービスと施設での介護サービスのバランスを考えながら、24 時間巡回対応ができる在宅介護サービスの導入など、在宅介護の充実とあわせて、必要な介護施設の整備につきましても引き続き検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○加藤人識議長

17 番 安室中学校 林陽香議員。

○安室中学校 林陽香議員（登壇）

安室中学校の林陽香です。今から姫路市のPR活動について質問をします。



姫路市の観光名所は、やはり姫路城です。日本で世界遺産に登録された唯一の城なので世界的にも有名で、その姫路城をもとにしたキャラクター「しろまるひめ」も誕生しました。

そして、今年は大河ドラマに姫路市ゆかりの黒田官兵衛を主人公とする「軍師官兵衛」が決まりました。イメージキャラクターの「かんべえくん」や大河ドラマ館、パレードなどのイベントが催されています。けれど、このことを知っている友達は余りいません。私たち姫路市民でも知らない、他の市や県でも多分余り知られていないと思います。姫路といえば姫路城と思われていた姫路が、大河ドラマという日本全国の人が見る大きな舞台でPRできるのです。これは、姫路城だけでない姫路の良さをアピールするチャンスだと思います。例えば、灘のけんか祭りや書写山などがあります。また、それだけでなく、姫路市独自のイベントなどを実施したらいいと思います。例えば、2年前に姫路市で行われた「B-1 グランプリ」では姫路市に50万人以上もの観光客が訪れました。これにちなんで、姫路市の特産物を使った「H-1 グランプリ」を実施したら、姫路市のPRにも、観光客を呼びこむことにもなると思います。

観光客を呼びこむと、たくさんの宿泊施設が必要になります。けれど、姫路駅周辺には宿泊施設が余りありません。その結果、観光客は神戸や大阪に行ってしまう。だから姫路市は、もっと宿泊施設を誘致すべきです。

以上、私は姫路市をもっとアピールするためのイベントの実施と、それにもなう宿泊施設の誘致を提案します。

以上についてお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。
釣観光・城改修担当理事。

○釣観光・城改修担当理事

安室中学校 林陽香議員のご質問にお答えをいたします。

姫路市では、来年の大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送を観光振興の最大のチャンスととらえ、現在、いろいろな事業を展開しているところでございます。具体的には、来年1月12日にオープンする大河ドラマ館の建設を現在進めております。また、色鮮やかなのぼりを姫路駅から姫路城まで設置し、全国から来られる観光客を歓迎する雰囲気盛り上げているところでございます。また、市内のレストランや商店街におかれても、官兵衛に関する食事のメニューや和菓子、アクセサリなどの新商品の開発が非常に活発になってきております。

また、B-1 グランプリなどで全国的に取り上げられました「姫路おでん」や「アーモンドトースト」の他にも、魚やお酒など姫路ならではの食や特産物はたくさんございます。

そのため、これらの特産品をPRするため、毎年開催しております姫路食博などのイベントをさらに盛り上げていきます。

また、市内の宿泊施設についてですが、現在41のホテルや旅館が営業しており、合計5,000人以上が宿泊可能となっております。最近では、今年6月に姫路駅の西に新たにホテルがオープンし、また姫路駅前にもホテルが開業を予定するなど、宿泊施設は増加の傾向にございます。

今後は、姫路でしか味わえない食べ物や特産品をPRし、観光客をふやしていくことにより民間の事業者が姫路でホテルを経営したいと思っただけのようなまちづくりに取り組んでまいります。

以上でございます。

○加藤人識議長

18 番 東光中学校 蔵下華蓮議員。

○東光中学校 蔵下華蓮議員（登壇）

東光中学校 蔵下華蓮です。今から、姫路市の図書館について質問します。



私は、日ごろから読書を心がけています。なぜなら、私の通う東光中学校では毎日、朝読の時間があり、本を読むことの重要性を理解するからです。ところが、先日、本を借りようと思って図書館へ行ったとき、落ち着いて本を読む環境といえず、また、サービスの低さにやや不満を感じました。まず、休館日が多すぎます。その上、蔵書数も少ないと思います。

最近では、中高生の本離れが進んでいると報道されていますが、このままでは、姫路市も中高生をはじめ、若者の本離れがますます進行してしまうのではないのでしょうか。

佐賀県武雄市の図書館では、運営を民間委託し、若者に人気のあるカフェを誘致するなど、図書館にゆっくりと滞在できる環境を整え、対策を立てています。また、市民や一般の人向けのホームページも充実しており、行政の取り組みに意識の高さがうかがえます。

このように、中高生が図書館へ行きたいと思えるような環境づくりが、今、姫路市でも必要ではないのでしょうか。

例えば、いつも図書館へ行くと、本を読むためのいすが満席です。だから、いすをもっとふやすことはできないのでしょうか。そして、川のせせらぎや森林の音など、いやしの曲を館内に流し、少しでも心を落ち着けて本を読める環境をつくってもらえないのでしょうか。

さらに、本を整理するための期間がとて多く、行きたいときや必要なときに行けないことがあるので、休館日を減らせないのでしょうか。また、一番困っていることは、家族と車で行く

ときです。駐車場はたったの 30 分しか無料でとめることができません。だから、ゆっくりと本を読みながら選ぶことが困難です。もっと駐車場に無料でとめておくことができる時間を長くすることを要望します。

以上のことについて、どのようにお考えかお答えください。

○加藤人識議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉教育長

東光中学校 蔵下華蓮議員の質問にお答えいたします。

まず、蔵書数が少ない、サービスが低いとのことですが、姫路市の図書館は、城内図書館の他に 14 の分館があります。蔵書は全体で 125 万冊、兵庫県内では、図書館の数では 1 番多く、蔵書数でも 2 番目の多さとなっております。また、サービス面では、姫路市図書館のネットワークを通しまして、スマートフォンやインターネットからの検索やあるいは予約ができるようになっております。また、予約された本を希望の図書館で早く受け取れるようにその体制も現在整備しているところです。これからもサービスの充実に努めてまいりたいと思っています。

次に、休館日が多いとのことですが、図書館では、多くの方々に利用していただけるように、土曜・日曜やハッピーマンデーも開館しております。さらに、城内図書館では、7 月、8 月には朝の開館時間を 30 分早めております。また、本を整理するための休館日が多いということについては、毎月 1 回の書棚の整理と年 1 回の蔵書点検やあるいはシステムの調整を確実に行わないと、本の整理がつかず、かえって利用者に迷惑をかけるため、休館としております。

次に、若者の本離れが進行しているということについては、中高生は幼児や小学生に比べて、確かに図書館利用や読書量が少ないという調査

報告がございます。図書館では、少しでも本に触れるきっかけになればということから中学生にお薦めの本というブックリストを現在、作成し配布しております。

続いて、図書館へ行きたくなるような環境をつくってもらいたいということですが、閲覧室にイスをふやしたりBGMを流したりして、環境を改善することについては、よいことだと思います。しかし、今ある施設・設備をすぐに改修することは難しいので、できることから取り組むとともに、計画的に改修を進めていきたいというふうに考えております。

最後に、無料駐車場の時間延長についてですが、城内図書館には、専用駐車場がありませんので、有料の城の北駐車場を、図書館利用者のために、図書の返却や予約本の受取ができるようにということで、特別に30分間無料で利用させていただいております。

いずれにしても、図書館の広報にも力を入れるなど、一人でも多くの方が図書館に足を運んでいただけるような図書館の運営に努めてまいりたいと思っておりますので、皆さんもどんどん図書館を利用して、読書を通していろいろな人や世界と出会い、心豊かな人間になってください。

以上です。

○加藤人識議長

議事の都合により、しばらく休憩します。

再開時刻は、午後3時ちょうどとします。

なお、再開後は、本子ども議会の議長に大白書中学校 稲葉加奈子議員を任命し、議事進行をお願いしたいと思います。

稲葉議員よろしく申し上げます。

△午後2時40分 休憩

△午後2時58分 再開

○稲葉加奈子議長

休憩前に引き続き、会議を再開します。

19番 朝日中学校 円城寺彩議員。

○朝日中学校 円城寺彩議員（登壇）

今から朝日中学校3年 円城寺彩より児童手当についての質問をします。

現在は、3歳未満と第3子以降の3歳から小学生の児童は1万5千円、第1子、第2子の3歳から小学生の児童と中学生は1万円の児童手当が支給されています。

私たち児童の健やかな成長に役立てるための援助金として各家庭に支給されているということですが、現時点で支給されている児童手当は中学校卒業までとなっています。

児童の養育に当たり、学年が上がっていくに連れてお金が比較的にかかると思いますが、現在は中学生より、3歳未満の児童や、第3子以降の3歳から小学生の児童の方が手当が大きい状況です。やはり高校への進学を希望する中学生がほとんどの中、最近では小学生から学習塾などに通う児童がふえているので、学年が上がるに連れて手当として支給される金額をふやすという形にすることは難しいでしょうか。

また、先程にも言いましたとおり、現在ではほとんどの児童が高校への進学を希望しますが中学卒業とともに義務教育が終了し、高校へ進むとますます金銭的に家庭に負担がかかると思います。そこで、児童手当の受給期間を高校に進学した児童のみ満18歳まで受給できるようにすることは不可能でしょうか。私自身、母子家庭で育ったので、金銭面での問題には身近に感じている分、前向きに検討をお願いしたいと思います。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。



大原こども育成担当理事。

○大原こども育成担当理事

朝日中学校 円城寺彩議員のご質問にお答えいたします。

児童手当制度は、児童を養育する家計の負担を軽減し、あわせて児童の健やかな成長を促すことを目的に昭和47年にスタートしました。当初は、5歳未満の第3子以降の児童が対象で、1人月額3,000円が支給されていました。以降、段階的に制度改正が行われ、支給対象及び支給額が拡充されてきたところです。

平成22年度には、従来の児童手当制度に変わり、新たに「子ども手当制度」が創設され、支給対象が小学生から中学生に拡大されるとともに、支給額についても、一律月額13,000円に引き上げられました。子ども手当制度は2年間続き、平成24年度に現行の児童手当制度に移行しました。現行制度でも、引き続き、対象は中学生までとなっています。

ご質問の3歳未満児及び3歳以上小学校修了前までの第3子以降について、支給額が中学生より大きくなっているが、学年が上がるとともに支給額をふやせないかということについてですが、まず、3歳未満の時期は、人間形成の基礎となる重要な時期であること、育児に手がかかり母親の就業率が低いこと、一般的に親の年齢が若く、収入が低い時期と考えられること、また、第3子以降については、多子世帯の経済的負担が特に大きいこと等を考慮して、これらの世帯についての給付が重点的に厚くなっています。

次に、高校生までの対象拡大ですが、現行制度では、義務教育修了までの児童が対象で、高校生は対象となっていません。しかし、平成22年度から家庭の状況にかかわらず皆さんが安心して勉学に打ち込めるよう、別途、国の負担により、公立高等学校等の授業料を無償化するとともに、私立高等学校等の授業料を低減する就学支援金支給制度を設け、家庭の教育費の負担

軽減を行なっています。

児童手当制度は、全国一律の国の制度であり、姫路市単独で支給対象や支給額を拡大することは困難ですが、恒久的な子どものための給付制度として、今後も、国において議論されていくものと考えております。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

20番 鹿谷中学校 田中萌慧議員。

○鹿谷中学校 田中萌慧議員（登壇）

姫路市立鹿谷中学校 田中萌慧です。今から「夢前町の活性化に向けての取り組み」について質問します。



私たちの住む夢前町は、緑に囲まれた自然豊かなまちです。平成18年3月に姫路市と合併し便利になった点もたくさんありますが、まだまだ不便な点もあります。

その一つが交通の問題です。姫路市の中央部にはたくさんの交通機関が集まっていますが、私の住んでいる前之庄に通っている交通機関はバスだけです。そのバスも南北のルート一本のみで、本数も少なく、夢前町からの通勤・通学は不便です。私たち中学生も高校への進学を考え、行きたい高校があってもそこまで行く便が限られていて、受験を考え直す場合があります。学校でも意見を聞いてみたところ、ほとんどの生徒が不便さを訴えました。

そこで、もし東西の路線や区間を決めて短距離路線があればと考えてみました。これらの路線があれば、進学したい高校にも行け、簡単な乗り換えで病院や目的地に行くこともでき、マイカーの交通量減少にもつながります。

このままの不便な状態では、地方の若い世代が便利な都市部に出て行き、ますます地方が寂

しくなっています。すると人口が減少した地域に交通機関を設置するのは難しくなり、不便なままの地方から出ていく人がさらにふえていってしまいます。この悪循環をよい方向に変えていくためにも行き届いた交通機関の充実は不可欠です。

夢前町のような地域の活性化が、いずれかは姫路市全体の活性化につながっていき、私たちが大人になるころにはまち全体が繁栄し誰もが住みやすいと思えるまちになっているはずです。

小さい子どもからお年寄りまですべての方がこのまちに住んでよかったと思えるまち、姫路を訪れた方々に「来て良かった、また来よう」と思ってもらえるようなまち、そんな姫路市になってほしいです。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

川淵都市局長。

○川淵都市局長

鹿谷中学校 田中萌慧議員の質問にお答えいたします。

夢前からの路線バスにつきましては、議員ご指摘のとおり、姫路駅方面へ南北に通行するバス路線のみで、東西方向の移動につきましては、自動車に頼らざるを得ない状況でございます。また、公共交通を取り巻く現状につきましても、車社会の進展等により、路線バス等公共交通の利用者の減少が続き、この利用者の減少から減便等サービス低下を招き、さらに利用者の減少を生むという、「負の連鎖」が全国各地で問題化しております。

姫路市では、これらの課題解決に向け、平成21年4月に「公共交通を中心とした姫路市総合交通計画」を策定し、車中心の交通体系から環境や人に優しい公共交通中心の交通体系への移行を目指し、さまざまな取り組みを行なっているところでございます。この総合交通計画の中

で、まさに議員ご提案のように夢前地域を含む北部地域間の連携強化を図るため、東西を結ぶバス路線の導入を目指すこととしております。

北部地域などの郊外部の特徴としましては、市街地に比べ、自動車への依存度が高いことや自動車から公共交通機関への転換が難しいことがこれまでの取り組みや実験結果からわかってまいりました。

このように「東西方向へ運行する路線の持続性」を確保する取り組みには、どれだけの方が利用される可能性があるかといった交通需要の把握や新たに利用してもらうための需要の掘り起こしなどを地域の皆さんと一緒に、しっかりと検討し、また、公共交通を積極的に利用しようという気持ちや地域公共交通を地域全体で“つくり・まもり・そだてる”といった意識の醸成などを十分に見極めていくことが大切であると考えております。

今後とも、地域と連携を図りながら、北部地域の活性化や一体性が図られ、高齢者や学生の皆さんなど、自動車を運転できない方々の移動手段確保に向けた、より持続性の高い公共交通施策に積極的に取り組み、「いつまでも住み続けたい」と思うまちづくりに役立てるよう推進したいと考えております。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

21番 家島中学校 北脇真琴議員。

○家島中学校 北脇真琴議員（登壇）

「明るく安全な街づくりのために」家島中学校 北脇真琴。先日は、家島への玄関口である港を整備していただき、ありがとうございました。



港がきれいになったことにより、家島の印象が大変明るくなりました。

私たちが住む家島本島は、人口約4千人が暮らす小さな島です。小学校、中学校ともに各学年1クラスずつとなり、子どもの数が減る一方で、高齢者の数がふえつづけています。

家島には、信号や歩道もなく、道幅が極端に狭いため、移動手段としてバイクや自転車を使用する方が多いです。道幅が狭い道路で車同士が出くわすと、どちらかがバックで戻らなければならない場面も少なくありません。このように、家島は同じ姫路市内でも、不便で高齢者や子どもたちにとって、危険な交通環境にあります。

私の学校では、塾へ行っている生徒がとても多いです。中には、学校が終わり、二つの塾へ行っている生徒もいます。夕方から始まるので外はまだ明るく、また、犬の散歩をしている人や、ウォーキングをしている人が多いため、安心して行くことができます。しかし、家島には、大きなスーパーなどがなく、店の数も少ない上に個人店なので、閉店時間がとても早いです。夜8時頃になると、店が閉まりはじめ、人けが急激に減り、街灯の少ない家島では、一気に暗くなっていきます。道幅が狭い路地を通る際や、少し広い道でも自動車やバイクとすれ違う際、足元が見えず、私たちは危険にさらされてしまいます。

このような危険を少しでも減らし、安全、安心なまちづくりのために、少しでも多くの街灯をつけていただければと思います。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

後藤建設局長。

○後藤建設局長

家島中学校 北脇真琴議員の質問にお答えいたします。

夜間の安全・安心を確保するための街路灯には大きく分けて、交通安全のための道路照明灯

と、犯罪防止のための防犯灯があります。

道路照明灯は、夜間の交差点での交通事故を防止するために主に交差点に姫路市が設置・管理しているものでございます。地域住民の皆様のご意見を代表する自治会から姫路市に設置の要望があったときには、設置場所を確認した上で可能な限り設置しております。

防犯灯は、暗いことが原因による犯罪が起こらないように、自治会で設置・管理しているものであります。姫路市では、防犯灯を設置しようとする自治会に対して、設置費用の一部を助成しております。

道路等の状況により照明の種類は異なりますが、いずれにしても地域の方々からの要望があれば、状況を精査し、検討、設置、助成していくこととなります。

今後におきましても、北協議員がお示しのとおり、安全、安心なまちづくりのために、家島地域の方々とは協力し、暗くて危険を伴うような場所が少しでも少なくなるよう努めていきたいと考えています。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

22番 増位中学校 多田和平議員。

○増位中学校 多田和平議員（登壇）

姫路市立増位中学校3年の多田和平です。

私は、姫路駅前が今、開発され発展していますが城下町や世界遺産のある都市としての姫路の個性について質問します。

最近の姫路駅周辺は以前より利用しやすくなりました。食べ物や、ファッション、日常利用する大きなものから、何気ない小さなものまで何でもあり、とても便利だと思います。それを実現している要因の一つに、「ピオレ」や「グラ



ンフェスタ」があります。

しかし、姫路には老舗と呼ばれる商店街の店がいくつもあります。商店街は戦前からあるものや、最近にできたものまでさまざま、ジャンルを問わずたくさんのお店があります。

そこで、最近開発されたピオレなどの商業施設が本当に姫路らしいと言えるのだろうかと考えるときがあります。

商店街には古くからの常連客がたくさんおり、お店の人と常連客の人たちはもちろん、常連客同士も、人と人とのつながりを大切にしてきました。私はその人たちが「姫路駅前に行きにくくなっているのではないだろうか」と考えます。先日、僕の網干にいる祖母と姫路駅前について話したとき、「車で行ったときにとめる場所がわからないし、駅前がごちゃごちゃしていて、以前と比べて行きにくくなった。」と言っていました。

姫路は城下町でありながら、歴史的建造物がマンションや駐車場に変わり、それに老舗といわれる専門店が次々と姿を消しているといわれているのも事実です。そこにも、それぞれの良さがあり、思いがあり、なくしたくないつながりがあったはずです。

やはり、ショッピングモールというよりも、商店街や歴史的建造物が似合う、伝統的なまちであってほしいと僕は思います。

以上について、お答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

内海市長公室長。

○内海市長公室長

増位中学校 多田和平議員の質問にお答えします。

今年の春に、姫路駅の地下街「グランフェスタ」や新駅ビル「ピオレ姫路」が相次いでオープンするなど、姫路駅の周りが大きく生まれ変わりつつあることは、多くの市民の皆さんが実

感されていると思います。

姫路駅前の新しいランドマークの一つとなるピオレ姫路は、特徴的な外観となっていますが、世界文化遺産・姫路城との調和を考慮されており、北側の壁は石垣をイメージするパネルで構成されているなど、さまざまな工夫が凝らされています。

また、ピオレ姫路の北側の地下庭園であるサンクンガーデンは、姫路城の外堀をイメージし、水と緑を生かしたデザインであり、駅ビルの西側に建設した眺望デッキは、姫路城の門をイメージして木と鉄を組み合わせた造りにしたりと、姫路城にちなんで姫路らしさを演出しています。

この他にも、姫路城の景観を損なわないようにするため、大手前通りなどでビルの高さ制限を行ったり、昔の風情が残る野里地区で歴史的な町並みや建造物を保存するための取り組みも進めています。

姫路の中心街は変わっている真っ最中ですが、守るべき個性は守りつつ、変わっていく中で新しい個性も生まれてきているところです。

次に、商店街についてですが、ピオレ姫路のような新しい商業施設ができたことで、これまで神戸や大阪へ買い物に行っていたお客さんを引きとめ、姫路での買い物客をふやす効果があると考えており、この効果を生かし、商店街と新しい商業施設が共存できるような環境をつくることが重要です。

多くの種類の商品を一度に買い物できる大型店も便利ですが、少ない種類のものを扱う専門店も非常に魅力的で、その役割を担うのが商店街だと考えています。

例えば、ピオレ姫路との差別化を図るために、商店街が中高年の買い物客をターゲットにした商売を展開することも一案として考えられます。

最後に、姫路駅周辺の整備や活性化については、今を生きる私たちだけでなく、姫路のまちをつくってきた昔の人たち、また、未来の私たちの子孫に対して責任を持つんだという視点を持って、多田議員のご指摘のように、姫路の歴

史や文化との調和と継承に十分配慮しながら進めていく必要があると考えています。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

23番 花田中学校 山本祐規子議員。

○花田中学校 山本祐規子議員（登壇）

姫路市立花田中学校三年の山本祐規子です。私は、「祭りなどの伝統文化をどう残していくか」について質問いたします。



私の住んでいる地域では、毎年秋祭りが行われています。獅子舞や和太鼓演奏、他の地域との屋台の練り合わせなど、どれも見ているだけで熱くなります。また、今年は20年に一度の「三ツ山大祭」に私の地域が出演し、とても貴重な体験をしました。

祭りとは、地域の人々と交流し、伝統文化を楽しむことのできる、よい行事だと私は思っています。

しかし、近年少子化や子ども会加入者の減少により、祭りの縮小化や祭りをやめてしまった地域があることを聞きました。私の地域でも、小学生の獅子舞、和太鼓演奏がなくなり、屋台の前後を歩く子どもたちも減ったせいか、少しずつ寂しい雰囲気になっている気がします。未来を担っていく私達こそが、地域の伝統文化を知り、そして後世へと伝えていくべきなのではないでしょうか。

昔から続くよき伝統文化をなくさないために、しっかりと考えていきたいです。そこで、「現在、姫路市で祭りを行っている地域はどれくらいあるのか」と、「各地域が祭りを守っていくための市の現在行っている対策、あるいは、これからの対策案はあるか。あれば、どのようなものから対策が考えられるのか」

以上のことにお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉教育長

花田中学校の山本祐規子議員の質問にお答えします。

ご存知のように、10月に入ると市内の各地で秋祭りが行われていますが、それ以外にも春や夏にもいろんな祭りが行われておりまして、その数につきましては、正確には数えておりませんが、文化財に指定されている祭りから、子ども会単位の小さな祭りも合わせますと、姫路市内のほとんどの自治会で行われております。

ただ、山本議員が指摘されているように、近年の少子化や子ども会参加者の減少などのために、祭りの規模が縮小しているところもありまして、伝統文化をどう残していくかが今後の課題になっております。

姫路市といたしましては、学問的に調べた上で、今後も残していくべき伝統的な祭りや民俗芸能については、無形民俗文化財として指定をしております。また、子どもたちに伝統的な芸能などを教える教室を地元で開いていただいたり、祭りの記録を作ったりもしております。

地域の無形の文化財は各地域の中で守り、伝えていっていただくということが、まずなよりの基本であり、そのためには若い世代の皆さんが伝統文化に興味を持ち、引き継いでいくことが大切です。山本議員のような若い皆さんが、古き良き伝統文化を引き継いでもらうために、今後私たちもお手伝いをさせていただきたいと考えております。

以上です。

○稲葉加奈子議長

24番 林田中学校 小林恵理佳議員。

○林田中学校 小林恵理佳議員（登壇）

林田中学校の小林恵理佳です。今から若い人も住めるような公共住宅の建設についての質問をします。



私が通っている林田中学校は小規模校で、全校生徒 151 人、そして 3 年後、今の 4 年生が中学 1 年生になるとき、とうとう学年 38 人で、学年 1 クラスになります。こういう状態に陥っている学校は他にもあると聞いています。そこで、若い世代が安心して子どもを産み育てることができる公共住宅の建設を提案します。

では、若い人も住めるような公共住宅とはどのようなものか。私は家賃が安いこと、子どもと安全に暮らせることだと思います。具体的には、ベビーカーを押しながら上の階に行けるようにエレベーターを設置する、共働きもできるように託児所を設ける、若い母親が子育ての情報や子ども服の交換をできる場所を設ける、子ども会のイベントが雨天でも開催できるスペースを確保するなどが必要だと思います。

今の林田にも公共住宅はありますが、建ってから長い年月がたっているため小さな子どもがいる家族には不便なことが多いです。だから姫路がもっと活性化するためにも先ほど言ったような公共住宅の建設が重要になってくると思います。

一年の予算で公共住宅の建設にはどれほどの予算があるのか、先ほど言ったようなことは可能なのでしょうか。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

川渚都市局長。

○川渚都市局長

林田中学校 小林恵理佳議員の質問にお答え

いたします。

まず、姫路市の公共住宅の予算についてですが、予算額は、事業内容が異なるため年度によって変動しますが、平成 25 年度の公共住宅の予算は、約 15 億円で、この内、約 10 億円が建設のための予算でございます。

姫路市では、この予算を使って公共住宅を維持管理、修理するほか、古くなった住宅の改善や建替えを計画的に行っております。これらの事業により、住宅のバリアフリー化、エレベーターの設置やエレベーター内の防犯カメラ設置などを実施することで、便利で安全安心に住むことができる住宅整備を進めております。

また、多用途に活用できる集会所や広場・公園を整備して、住宅の入居者や近隣の人が交流できる場所、スペースづくりも行っております。

次に、ご提案の「若い世代が安心して子どもを産み育てるための公共住宅」の建設ができるかについてお答えいたします。

姫路市では、若い世代から高齢者の世代まで、また一人住まいの世帯から大家族世帯まで、公共住宅を必要とする人が多くおられます。限られた予算で、効率的で効果的に住宅整備を行わなければならないため、直ちに、若い世代専用の公共住宅を建設することは困難な状況でございますが、姫路市では、子育て世代への支援の一つとして、若年者及び子育て世代には、収入要件の緩和や抽選の優遇など、子育て世代がより入居しやすい制度を設けております。

今後とも、住民の交流や利便性、安全安心に配慮した住宅整備を進めることで、若い人も住みやすい公共の住宅の建設に取り組んでまいります。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

25 番 灘中学校 加藤人識議員。

○灘中学校 加藤人識議員（登壇）

「灘のけんか祭りによるゴミについて」灘中

学校2年加藤人識。

僕の地域では、灘のけんか祭りが行われています。この祭りは全国的にも有名で多くの人を訪れます。この伝統のある祭りをもっと誇れるものにするために、マナーを祭りに参加している人、見ている人に守ってもらう必要があると僕は思います。

マナーよく続けていくために、お願いがあります。それは、灘のけんか祭りで出るゴミを少なくするという事です。

僕が小学生の時、学校で全校生徒が祭りで出たゴミのゴミ拾いを行っていました。毎年多くのゴミを拾っていました。そのとき僕はゴミが多く、ジュースや酒などの飲みかけの飲み物がこぼれ落ちていて悪臭が出るなどマナーが悪いなど思っていました。そのゴミのほとんどが、ポイ捨てによるゴミで、「祭りだからポイ捨てしてもよい、許される。」と知っている人が多く、マナーについての意識が低いということと、毎年多くの人が祭りを見に訪れるのに対して、ゴミ箱の数が非常に少ないということです。

そこで市には、二つお願いがあります。

一つは、祭りを見ている人や参加している人がゴミを捨てるようにゴミ引取所のようなものを幾つか設置し、そこにゴミを渡したら、お金が何円か返ってきたり、出店の無料券や割引券を配るなど、これならゴミを捨てようと思えるようなことをすることです。

もう一つは、みんなのマナーに対する意識を高くするために、呼びかけの絵や言葉を載せたティッシュやうちわなどを配ることです。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

中澤環境局長。



○中澤環境局長

灘中学校 加藤人識議員の質問にお答えいたします。

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」という法律では、家庭から出るゴミは、それぞれの市町村が処理することとなっております。国民はそれに協力しなければならないと規定されております。そのために、皆さんにはリサイクルできるものや燃やせるものなどに分別していただき、姫路市が行うゴミの処理にいろいろと協力してもらっております。

また、事業者は事業活動によって発生したゴミを自らの責任で適正に処理しなければならないというふうにも規定されております。

さて、姫路市では市内各所でいろいろなお祭りやイベントが開催されており、非常にたくさんのゴミが出ていますが、その時に出てくるゴミの処分は、今お話ししましたように、お祭りの主催者が責任を持って処分していただかなければなりません。楽しくお祭りを過ごすためには、お祭りの主催者や参加者の皆さんができるだけゴミを少なくし、マナーを向上されることを期待しております。

また、そのマナーの向上を図るために、姫路市では、市民の皆さんと一緒にゴミ拾いなどをするクリーンキャンペーンのほか、環境標語の募集や環境ポスターを描いてもらって、美化啓発のカレンダーを作成し市内の小学3年生に配ったり、また、毎年9月の末に実施しています「ひめじ環境フェスティバル」で美化啓発のパネルを展示するなどして、環境問題への関心を持ってもらう取り組みをしております。

加藤議員から提案していただいたゴミの引取所を設置する等のアイデアも参考にさせていただき、市民の皆さんと協力して美しいまちづくりを進めていくとともに、マナーの向上を図っていきたくと考えております。

なお、毎年12月の第1日曜日には、自治会の皆さんと協力して、全市一斉清掃を実施しております。今年は来週の日曜日、12月1日ですの

で、議員の皆さんもぜひご参加ください。
以上でございます。

○稲葉加奈子議長

26番 飾磨西中学校 池田奈美議員。

○飾磨西中学校 池田奈美議員（登壇）

飾磨西中学校の池田奈美です。トライやるウィークを小学生、あるいは中学1年生でも実施する取り組みができるかについて質問します。



現在、兵庫県ではトライやるウィークという一週間の職場体験を中学2年生で行っています。

私は、中学2年生の1回だけでなく、小学生や、中学1年生でも実施することによって三つの利点があると考えました。

例えば、小学6年生のときに一度実施してみます。やはり、まだ幼く、考え方も浅い、無礼や迷惑行為を働く可能性があります。しかし、その失敗が次の中学2年生のトライやるウィークで生かせるのではないかと考えました。

次に、中学2年生の1回だけでなく、小学生や中学1年生でも実施することによって将来の夢がまだ決まっていなかった人がいろんな仕事を体験することができたり、複数の仕事を体験し、比較することができる点です。

そして、三つ目の利点としては、地域の人と実際に働いてみて、今までに気づけなかった事に気づくことも多いと思います。例えば、日ごろは何も思わず行っていた通りすがりに見るだけだったコンビニエンスストアやスーパーマーケットが、実は独居老人の生活を助けている存在だったことを知りました。このような体験を、何回かすることによって、より地域の中のつながりを深く知ることができると思います。

トライやるウィークを中学2年生以外でも実施することができるかどうか。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。
中杉教育長。

○中杉教育長

飾磨西中学校 池田奈美議員の質問にお答えをいたします。

池田議員は三つの利点を考えてくれました。一つ一つ具体的でとても大切なことを示してくれました。真剣にトライやる・ウィークに取り組んでくれたことがよくわかります。しかし、今のところ、小学生や中学1年生でトライやる・ウィークのような長期間の体験活動を実施することは、難しいと考えております。

それは、学校での学習は、国で決められておりまして、皆さんの成長の段階を踏まえて、さまざまな体験活動を行なっております。小学校の自然学校などでの自然体験や、中学1年生でのわくわくオーケストラ教室などの体験活動がそれに当たります。これらに加えてさらに長期間の体験活動を実施することは、時間的にも困難です。また、中学3年生になると、自分の将来や生き方について考え、具体的に進路選択をしていかなければなりません。その前に、地域の人々の働く姿に触れる体験を通して、自分の役割を果たすことや社会で自立することの大切さを学んでおく必要があります。こうしたことから、兵庫県では、中学2年生でトライやる・ウィークを実施していることについては、ご存知のとおりです。

皆さんにはトライやる・ウィークで学んだことをもとに、地域での活動にみずから積極的に参加するなど、地域や社会とのかかわりを意識しながら、自分の役割をしっかりと果たす大人になっていただきたいと思っております。

以上です。

○稲葉加奈子議長

27 番 置塩中学校 善明詩乃議員。

○置塩中学校 善明詩乃議員（登壇）

置塩中学校の善明詩乃です。災害対策について質問します。



市川、夢前川、揖保川と姫路市には三つの大きな河川が流れています。川は私たちの生活に大きな潤いを与えてくれます。しかし、普段の穏やかな姿は、豪雨で一変します。最近の異常気象、特に豪雨による影響は大きく、梅雨前線、台風が来ると河川敷のグラウンドが見えなくなるぐらいまで水位が上昇しています。

去年は、台風による水位の上昇で私たちの校区の一部の地区では、床上浸水の被害が起こり、小学校の体育館まで避難しました。外に出ると、腰の高さまで水があったそうです。

また、豪雨は河川の氾濫だけでなく、土砂災害も引き起こします。災害は起こらないという安全神話は阪神大震災ですでに崩壊しています。大切なことは、自然災害によってもたらされる被害を最小限に食いとめることと、人災を含む二次災害を防ぐことだと思います。

そこで、現在、姫路市が最も力を入れている災害対策とその取り組みについて、また、山崎断層による地震の発生が起こる可能性が大きいですが、大地震が起こった際のライフラインの確保について、そして、普段から私たちのために働き、災害のときは最後のとりでとなる消防行政の課題とその取り組み。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

飯島副市長。

○飯島副市長

置塩中学校 善明詩乃議員のご質問にお答え

いたします。

まず、未来を担う善明議員が高い防災意識を持っておられることを大変うれしく思います。

さて、1 点目の姫路市がもっとも力を入れている災害対策とその取り組みについて、特に豪雨水害についてのご質問です。姫路市でも 2 年前の 9 月の台風 12 号では、1 時間あたり降雨量 79 ミリの過去最大の豪雨に見舞われるなど記録的な豪雨水害が全国で頻発しております。深夜で豪雨の中、遠くの避難所に避難することは二次災害の危険もあり、容易ではありません。このため、姫路市では豪雨水害の際に、自宅などの 2 階以上に避難する、いわゆる垂直非難すべき地域を定め、あわせて近くの避難所をふやすなど、全国に先がけた避難方法を今年から導入いたしました。また、災害発生時において、迅速な避難が困難である例えばお年寄りの方など災害時要援護者の台帳づくりや安全に避難できる仕組みづくりについても昨年からの地域の皆さんとともに全市で取り組んでおります。

次に、2 点目の大地震が起こった際のライフラインの確保についてであります。災害時において生命を維持するために最も重要となる飲料水につきましては、姫路市が給水車で避難所に飲料水を運ぶ体制を確立し、また、流通業者と協定を交わすことでペットボトルの配付もできるようにしております。

また、電気、ガス、電話のライフラインにつきましては、関西電力、大阪ガス、NTT と連携し、迅速な復旧に努める体制をとっております。

次に、3 点目の消防行政の課題とその取り組みについてであります。昨年 1 年間で 43,000 件を超える火災・救急・救助などの 119 番通報があり、姫路市消防局は 24 時間、市民の安全・安心を守っております。近年では、火災のみならず、全国的に頻発している地震や豪雨水害といった自然災害への備えも重要となっていることが課題であります。このため、消防団や婦人防火クラブ、自主防災会といった地域団体と連

携し、地域のきずなを通じて、防火防災の取り組みを強化しております。

また、来年新春に、リニューアルオープンする「ひめじ防災プラザ」を活用して、中学生の皆さんも含め、市民の防災意識の向上にも取り組んでまいります。

ところで、江戸時代の姫路藩では善明議員お住まいの夢前町で 1809 年に固寧倉がスタートいたしました。これは地域住民が穀物を出し合い、地域のきずなで自然災害に備えるための防災備蓄倉庫であります。夢前町からスタートした固寧倉は、姫路藩内くまなく 288 箇所固寧倉ができました。この防災システムのおかげで 1830 年代の天保の大飢饉にも姫路での被害はなかったといわれています。地域のきずなによって防災対策を行った先人の誇るべき歴史を今日に生かし、これからも善明議員はじめ皆さんと手を携えて防災対策に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

28 番 城乾中学校 牛尾哉太議員。

○城乾中学校 牛尾哉太議員（登壇）

城乾中学校の牛尾哉太です。今から、いじめをなくすための対策について質問します。

最近、いじめを理由に、みずから自分の命を絶つ子どものニュースが後を絶ちません。そのニュースを聞くたびに、なぜ、そのようなことが起こっているのか、何かできることはないのかと思います。

このような悲しい事件を二度と起こさないためにも、何かする必要があるのではないかと思います。僕は、もっと僕たちを取り巻く環境を整えていく必要があると思います。



そして、僕たちが通う学校では、一年に数回、アンケートと教育相談が行われ、いじめ防止のための取り組みがたくさん行われています。

また、今年の 6 月 28 日に公布された「いじめ防止対策推進法」が、9 月 28 日に施行されました。その第 12 条に基づいて、姫路市は、今後どのような方針や対策をされる予定でありますか。以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉教育長

城乾中学校 牛尾哉太議員の質問にお答えをいたします。

いじめは相手の人権を踏みにじる行為であり決して許されることではありません。姫路市といたしましては、国や県のいじめ防止に関する基本方針などを参考にしながら、今後、姫路市いじめ防止基本方針をつくって、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取り組みを進めてまいりたいと考えています。

具体的には、道徳教育、体験活動などを充実させて豊かな心を育てることや、学級活動や生徒会活動、また生徒が主体的に実施するフレンドフル事業などを通じて、互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりを行うことでいじめの未然防止に努めていきます。

また、早期発見、早期対応のためには、生徒の皆さんが相談しやすい環境づくりが何よりも大切です。このため、いじめ実態調査アンケートや生活ノート、またメールでエール等の活用、さらに教育相談や姫路っ子悩み相談の充実等の取り組みを進めていきたいと考えています。

最後に、いじめをなくすためには中学生の皆さんも一緒になって、解決策を考えていくことが何よりも大切です。皆さんも、いじめを見逃さない、決して許さないという気持ちを大切に、これを機会に、自分には何ができるかを考

えてほしいと思います。

以上です。

○稲葉加奈子議長

29 番 賢明女子学院中学校 寶納千晴議員。

○賢明女子学院中学校 寶納千晴議員（登壇）

賢明女子学院中学校の寶納千晴です。今から姫路市立美術館などの展示物について質問します。



私は絵画を見るのが大好きで、よく美術館へ出かけます。しかし、有名な絵画が展示されるのは、ほとんどが神戸の兵庫県立美術館で、毎回電車やバスを乗り継いで、遠くまで行かなければなりません。

そこで、姫路市立美術館は駅からバスで数分で行くことができ、姫路城からも近いという立地条件を生かし、もっと展示物の充実を図ってみてはどうでしょうか。中学生などでも知っているような有名な絵画を短期間でも展示すれば、たくさんの人が訪れると思います。

また、姫路城の修理の終了時期にあわせて、西洋画のみならず、日本画を展示したり日本各地の伝統工芸品なども展示すれば、外国人観光客の集客もさらに望めるのではないかと思います。

展示物の決定権やそれにかかる費用についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

中杉教育長。

○中杉教育長

賢明女子学院中学校 寶納千晴議員の質問にお答えをいたします。

姫路市立美術館は、市民の美術文化を高める

ために設置された学習施設であり、その目的の達成のために、さまざまな展覧会を行っております。

ご質問にありました「中学生でも知っているような作品をもっともって出品してほしい」という提案でございますが、美術の教科書に登場する作家や作品につきましては、長い時間をかけて、少しずつ人々に支持されながら歴史のなかで評価が確立した結果、その結果多くの人々に名前が知られることになったものでございます。

現在開催中の「広重展」をはじめ、教科書に載っている尾形光琳の「風神雷神図」等、美術館は今までもたくさんの著名な作品を紹介してまいりました。今後ご期待におこたえできるよう一層努力してまいりたいと思っております。

そしてもう一つ、ぜひ知っていただきたい美術館の役割があります。それは「新しい価値を生み育てる」という使命です。これまで知られていなかった作品や新鮮な驚きを与える新しい作品を発見して紹介し、皆さんに未知の世界との出会いの場を提供するのも美術館の大切な仕事です。

それは外国の作品や、また、地元、姫路の美術家の作品などさまざまです。「姫路市美術展」や「現代郷土作家展」は、姫路から新しい芸術家が生まれ育つことを願って開館以来 30 年間続けてきた展覧会です。

最後に、どんな作品を展示し、どんな展覧会を実現するかについてですが、それは学芸員資格をもった専門職のお兄さんやお姉さんが考えています。日本や海外といった地域、また、現在・過去・未来といったさまざまな観点から慎重に検討しております。

展覧会にかかる費用は数十万円から一千万円を超えるものまでさまざまですが、どの展覧会も大切な市民のお金によって開催するものでありますので、「今、姫路市の美術館でどんな作品を紹介すべきか」を美術館内で熱心に議論した

上で決定をしております。

子ども議員の皆さんのご期待にこたえるように頑張りたいと思っておりますので、皆さんもぜひ美術館に足を運んでください。

以上です。

○稲葉加奈子議長

30 番 網干中学校 檜皮拓也議員。

○網干中学校 檜皮拓也議員（登壇）

網干中学校 2 年
檜皮拓也。

議員僕は質問したいことが二つあります。

僕は時々姫路駅の周りに行きますが、何年か前から工事が始まり、駅が高架になったり、駅のビルも建て替えられ、どんどん近代化が進んでいっていると思います。

しかし、最近、大手前通りの一部がバスなどの専用道路となり、一般車は入れないようになっています。車の人は不便だと思うので、交通の便もよくなるようにしてほしいと思います。ですが、まだ工事中の場所もたくさんあり、試験的などころもあると思います。そこで、この工事はどのような趣旨で行われているのか、また、今後どのように進めて、いつごろに完成するつもりなのか知りたいです。

もう一つ。僕たちは今、2 年生ですが、僕たちが高校を受検する、来年度から、入試の制度が新しく変わり、今までの姫路・福崎学区からさらに広い、違う学区分けになります。情報も余りなく、前例もないので、僕たちの中にも不安な人が大勢いると思います。わからないこともたくさんあります。そこで、制度を変えることでどんな利点があるのか、また反対に、問題点や課題などはどんなものがあるのか。

以上 2 点について、お答え下さい。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

寺前副市長。

○寺前副市長

網干中学校 檜皮拓也議員のご質問のうち、私からは「姫路駅周辺の工事の趣旨と今後の予定」について、お答えいたします。

まず、JR 姫路駅周辺の鉄道高架化事業につきましては、平成 23 年 3 月に工事が完了いたしました。そして周辺から中心市街地に集中する交通を効果的に分散することを目的として、高架化事業に合わせて周辺道路網の整備を進めており、旧の豆腐町踏切がありました内々環状線や朝日橋陸橋がありました内環状線等の拡幅を進めまして、姫路駅を中心とした環状道路網の整備に取り組んでいるところであります。現在も工事中の箇所が多く、檜皮議員はじめ市民の皆様にご迷惑をおかけしております。

ご質問の一般車両の乗り入れ制限につきましては、内々環状道路の内側区域では姫路駅前に用事のない通過交通を排除し、大手前通りの十二所前線より南の区間は、歩行者とバス・タクシーの公共交通を優先する安全で快適な人に優しい交通環境整備を目的として、公共交通以外の一般車両の進入を制限し、大手前通りの車線数を減らし、歩道を拡幅することとしております。これによりまして、北駅前広場を安全で快適な歩行者空間にするとともに、今年 4 月に完成しましたサンクンガーデンや現在整備中の芝生広場をイベントやライブ等に活用いただき、くつろぎや賑わいに満ちた空間を創出したいと考えております。

一方、姫路駅への送迎等の一般車両のアクセスにつきましては、東側には御幸通り南端に乗降場が既に完成しており、西側にはキャスパールの南側に神姫バス株式会社が建設する「姫路ターミナルスクエア」のビルの 1 階に乗降場を整備することとしております。

これらを含めまして、北駅前広場全体の完成

時期としては、平成 27 年 3 月を予定しております。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

中杉教育長。

○中杉教育長

網干中学校 檜皮拓也議員の質問のうち、私からは新しい入試制度・学区についてお答えをいたします。

今回のこの制度の目的は、学びたいことが学べる高校を選ぶことができるようその選択幅を可能な限り広げることにあります。

姫路市の中学生は、これまでは複数志願選抜で受検できるのは 12 の普通科高校でしたが、通学区域が拡大することで、総合学科や単位制の高校も含め 22 の高校になります。

このように、新しい制度の利点は、より多くの中から皆さんの志望に合う高校を選択できるようになることです。

反面、課題は、兵庫県の通学区域の変更は約 50 年ぶりのことですので、檜皮議員のように、生徒や保護者の皆さんが不安に感じられるのも、もっともなことだと思います。

こうした不安を解消するため、兵庫県教育委員会を中心に、姫路市教育委員会でも、新しい入試制度に関する情報を発信して、その解消に一層努めていきたいと思っております。今年 4 月に中学 2 年生に配付しました「学びたいことが学べる高校を選ぶために」、県教委作成のパンフレットでございますけれども、それもその一つです。

播磨西地域には、魅力ある高校がたくさんあります。各高校でもホームページなどで、それぞれの学校の特色を発信しておりますので、保護者の方や中学の先生とよく相談して、真に学びたい高校を選択し、そして夢の実現に向けて頑張っていたきたいというふうに思っております。

以上です。

○稲葉加奈子議長

31 番 神南中学校 上野天士郎議員。

○神南中学校 上野天士郎議員（登壇）

神南中学校の上野天士郎です。今からスクールバスを利用した登園制度をつくることについて質問します。



僕の提案は園児の少ないこども園や保育園、幼稚園に子どもが多い地域の子どもたちをスクールバスを利用して、登園させてはどうかということです。

僕が住んでいる地域のこども園では、年々子どもたちの数が減少していています。人数が多ければ、もっとたくさんの友達ができ、世界が広がるのと思います。一方で園児が多いため園庭や教室が狭く、受け入れ態勢が十分でないこども園や保育園、幼稚園もあることを、ニュースや新聞などでよく見聞きします。

そこで、スクールバスなどを利用した登園制度をつくることを提案します。この制度をつくれれば少し遠い距離にあるこども園や保育園、幼稚園にでも通えるようになり、園児の数が多くなってしまったり、少なくなり過ぎてしまうことを防ぐことができます。

園児の数をバランスよく調整することには、たくさんのメリットがあります。

例えば、園児の数がちょうどよくなることにより園庭も教室も広くなり、伸び伸びと生活をすることができます。また、それにより運動会や音楽会、生活発表会なども盛り上がると思います。

他にも、都市部に住んでいる園児を豊かな自然と触れ合うことのできるこども園に登園させることにより、普段できない自然を利用した遊び、例えば、虫や魚を捕えたり、草花を摘んだ

り、秘密基地づくりや散歩をするなど、のどかで貴重な経験ができることと思います。

このように、園児の多いこども園の子どもたちを自然の豊かなこども園に登園させることで、姫路市の未来を担う元気な子どもたちが育つと思います。このような登園制度を姫路市の政策として実施することはできないでしょうか。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

河原生活審議監。

○河原生活審議監

神南中学校 上野天士郎議員の質問にお答えをいたします。

ご指摘のとおり、現在、姫路市では郊外地域での子どもの減少に伴う問題や、一部の地域での保育所への入所希望者の集中に伴う問題などがございます。

まず、子どもの減少の対応策として、姫路市では、幼稚園の統廃合や4歳児保育の実施、保育所との一体化などにより、地域の子どもたちが同じ施設で過ごし、集団生活での体験を積む機会を設けられるような取り組みを進めています。

一方、保育所で待機児童の発生しているような地域では、新しく保育所を設置するなどの方法によって、入所希望者の集中の緩和と保育環境の向上に努めているところです。

ご提案のありましたスクールバスを利用した登園制度の導入については大変ユニークなご提案とは思いますが、スクールバスの運行にかかる経費が大きなものとなること、また遠方の保育所や幼稚園に通うことを望まれる保護者の方がどの程度いらっしゃるかわからないため、今の段階では、実施は難しいと考えています。

しかしながら、姫路市の未来を担う子どもたちの健やかな成長のために、望ましい集団の数が確保された施設において、子どもたちがさま

ざまな経験をし、社会性を育むことができる環境を整えることが大切であるということは、私どもも上野議員と全く同じ思いですので、今後も教育・保育環境の整備に努めてまいりたいと考えています。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

32番 白鷺中学校 木村愛哉議員。

○白鷺中学校 木村愛哉議員（登壇）

白鷺中学校の木村愛哉です。

大手前通りとその周辺を汚しているムクドリのフンを取りのぞき、きれいな街並みにする手立てがないか、質問します。

僕はいつも通学の時に大手前通りを通っているのですが、特に春から秋にかけて、大手前通りの木々にたくさんのムクドリがやって来て、フンを落とします。僕は通学の時に、そのフンを避けて通っています。他にも通勤途中の多くの方が、ムクドリのフンを気にしながら大手前通りを通っています。フンが落ちてると見た目も汚いうえ、大量なので臭いもひどい時があります。

僕はいつもこのムクドリのフンがどうにかならないものかと感じていました。大手前通りは姫路駅から姫路城を一直線で結んでいます。日本人だけでなく、外国からの観光客の方もたくさんいます。もし、自分自身がどこかに観光に行つてあの大量のフンを見たら、その都市の印象は悪くなります。ムクドリのフンが落ちている大手前通りも他から来た観光客にとっては、僕と同じ印象を受けると思います。姫路がそんなふうに使われるのは残念です。せっかくのきれいな街並みや姫路城を観光客の人たちに楽しんでもらうためにも、大手前通りのフンを取り



除く必要があると考えます。

だから、僕は大手前通りをきれいにするためのボランティア活動や定期的に掃除するようなシステムがあったらいいなと思います。世界に誇る姫路城があるこの町だからこそ、姫路城だけでなく、その周りの道路や環境を整えて、おもてなしの心があふれるまちにしてみたいことを望みます。

そこで、ボランティア活動をさまざまな学校や団体に呼びかけ、定期的に清掃を行うことは可能でしょうか。また、現在行われている清掃活動などありますか。

以上についてお答え下さい。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

後藤建設局長。

○後藤建設局長

白鷺中学校 木村愛哉議員の質問にお答えいたします。

議員の言われますように、ムクドリが大手前通りの歩道に落とすフンや羽根は、衛生面や景観面において好ましくない状況であると認識しております。

姫路市では、大手前通りを「美化強化区域」に指定し、正月の3日間を除き毎日、清掃を行っております。加えて、6月から翌1月までのムクドリの飛来が多い時期には、週2回、歩道、路面のフンを取り除く洗浄を実施しております。

また、地元自治会をはじめ、清掃ボランティアの皆様は随時清掃活動を行っていただくとともに、お店の周辺100mを目安として清掃をしていただく「まちかど100mクリーンアクション」を設置し、その参加を呼びかけております。

現在では、大手前通り周辺の事業所に参加いただき、日々美化運動に取り組んでいただくなど快適で美しく清潔なまちづくりを目指しております。

しかしながら、ムクドリは夕方に飛来し、街

路樹をめぐらしてありますので、昼間にフンの清掃をしても翌朝には、元に戻っているような状況であります。

原因となるムクドリの飛来への対策は、姫路市だけでなく全国的にも解決が難しい課題であります。姫路市でもこれまでにいろいろと対策を試みてはまいりましたが、現在においても完全に寄りつかなくすることはできておりません。今後におきましても、ムクドリ対策について粘り強く取り組んでいくとともに、清掃活動を継続、充実させ、美しい大手前通りにしていくため、木村愛哉議員の言われるおもてなしの心をもって、引き続き努力してまいります。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

33番 飾磨東中学校 松崎智香議員。

○飾磨東中学校 松崎智香議員（登壇）

姫路市の特産物について。飾磨東中学校の松崎智香です。

姫路市には世界文化遺産である姫路城があります。また、姫路城ほど知られて



いませんが書写塗りやしらさぎ染め、姫路はりこや皮革製品も有名です。特に私の住んでいる地域の近くでは、皮革製品に関わる工場があり、とても親しみがあります。

兵庫県の皮革産業の歴史はとても深く、弥生時代後期に大陸から入ってきたのち、江戸時代中期には姫路藩の重商政策のもと、大きく発展したそうです。現在では、姫路市、たつの市、川西市の合計出荷額が、全国の2分の1以上を占めています。姫路市では、高木、御着、網干などの地域で皮革製品を生産しています。

私は、地元、姫路市のまちが好きです。なので、もっと全国の皆さんに姫路市で受け継がれている製品を知ってもらいたいです。皮革製品

がもっと全国的に有名になれば、もっとたくさんの人々に使ってもらえるのではないのでしょうか。

そのために私は、皮革製品を宣伝する広告やポスターの作製がよいと考えました。

そこで質問です。皮革製品を知ってもらうために市ではどのような取り組みをされていますか。

以上のことについてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

北川産業局長。

○北川産業局長

飾磨東中学校 松崎智香議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の中にもございましたように、姫路の皮革産業は長い歴史と伝統を誇っています。

全国的にみると、牛の皮革で約2割、馬の皮革で約8割もの大きな生産量を占めています。

このように、皮革産業は姫路の重要な地場産業となっていますが、生産されているものがかばんや靴などに加工される前の皮革素材が多いため、姫路が全国有数の皮革の生産地であることが、余り知られていないように思います。

そこで、姫路の皮革産業をPRするため、姫路市でも大いに力を入れています。

まず、姫路の皮革製品の技術やデザインのレベルを上げるため、加工に携わる職人さんを養成する工房を設けています。また、皮革製品の姫路のブランド化を目指して、姫路の皮革であることを示すロゴマークをつくっています。

販売の分野では、市内で皮革産業が盛んな地区にある皮革製品の専門店を応援しています。

JR姫路駅の南側にある地場産業の商品を取り扱う「じばさんセンター」では、姫路の皮革製品を展示・販売しています。

また、市内で「姫路城皮革フェスティバル」や「皮革フェア」といった、姫路の皮革をPR

するイベントを実施しているほか、全国に向けてPRするため、東京や神戸で開催される皮革関連の展示会にも出展しています。

先日、姫路の皮革を使ったバックがイタリアのミラノで開催された世界最高峰といわれる国際バックショーにおいて、2年連続で入賞を果たしたといううれしいニュースが入ってきました。

このように、姫路の皮革を使った製品が世界的にも高く評価されるようになってきています。

来年以降、NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映、姫路城の大天守のリニューアルオープンなどがございますが、こういったことによって姫路市が大きく注目されるものと思われまます。この流れにも乗って、「皮革のまち・姫路」を広くPRし、姫路の皮革産業がさらに発展するよう積極的に取り組んでいきたいというふうに考えています。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

34番 城山中学校 中村恭輔議員。

○城山中学校 中村恭輔議員（登壇）

今回私が質問させていただくのは、町中に太陽光パネルを設置してはどうかということです。

太陽光パネルは、次世代の新しい発電方法として注目されています。そのメリットは、日光さえあれば小規模でも発電できるということです。そのメリットを生かせば、まちの小さな場所でも発電できると思います。

例えば、街灯の上の小さなスペースや自動販売機の上、それこそ家を建てるときに誰もが一度は考えるであろう屋根の上など、少し考えただけでたくさんの場所が見つかります。実際、まちに出てみると、太陽光パネルを設置してい



る家やソーラーパネルを設置している大手スーパーもあります。それらを見ていると、より一層、自然エネルギーによる発電の大切さを感じます。そう感じるのは私だけでしょうか。

その他にも利点があります。それは、CO₂が発生しないことや災害時などの停電時でも電気を使えるということです。太陽光パネルは基本、日光があれば発電できます。もちろん雨天時、曇天時には発電量が減り、日没後はできなくなってしまいますが、少量でも発電はできます。だから、停電時でも今までのように懐中電灯だけで過ごすことはなくなるのです。照明があれば、転倒などによる二次災害も防ぐことができ、姫路市としても災害を減らせるというメリットがあると思います。

しかし、初期コストが大きいとお考えの方も大勢いらっしゃると思います。確かに初期コストはかかりますが、余った電気を売る時に受け取れる金額を10年、15年という長い年月でみていくとコストを超える利益がでてくると思います。

それにこの姫路市は瀬戸内の気候に属していて、雨が降りにくい地域でもあり、環境にも恵まれています。初期コストを払う勇氣は必要ですが、後々利益が出るなら設置してみようと思いませんか。

地球温暖化を食いとめるためにも、今まで述べてきたメリットを考えれば、初期コストが高いというデメリットはささいなことにすぎません。多くのメリットがある太陽光発電を町中につけていくことを市全体で取り組んでみてはどうでしょうか。

以上についてお答えください。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。
中澤環境局長。

○中澤環境局長

城山中学校 中村恭輔議員の質問にお答えい

たします。

太陽光をはじめ自然エネルギーを利用した発電は二酸化炭素を発生しないため、地球温暖化対策の一つとして、大変有効な手段であり、東日本大震災によります原発事故を受けて、その重要性はますます高まっています。

議員のご提案にもありますとおり、姫路市は温暖な気候に恵まれ、年間を通じて、太陽光発電に必要な安定した日射量が期待できるため、その普及促進に取り組んでいるところでございます。

市では、施設の新設や改修に合わせて、率先して太陽光発電設備の導入を進めており、これまで、市役所本庁舎を初め、防災センターや市民会館などのほか、小学校や中学校にも、太陽光発電設備を設置しています。

また、市民を対象とした普及促進として、住宅に太陽光発電システムを設置される方に、その費用の一部を補助する制度を設けており、多くの方に利用していただいています。

最近では、市内でも多くの家に太陽光パネルが見られるようになり、また、遊んでいる土地を利用して太陽光パネルを設置する企業も出てきております。

今後も一層普及促進を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

35番 高丘中学校 寺谷孔希議員。

○高丘中学校 寺谷孔希議員（登壇）

姫路市営モノレールと、姫路城周辺の猫問題について、高丘中学校二年寺谷孔希。

姫路市営モノレールと、姫路城周辺の猫問題について質問します。



まず1点目は、姫路市営モノレールについてです。

僕は休日に家族と買い物をするときによく姫路駅周辺に行きます。そこで、ある不思議なものを見ました。それは、途切れ途切れになったレールです。僕は、「なぜ、こんなところに途切れたレールがあるのだろうか。」と思いました。そこで、僕はインターネットでこのレールのことを調べました。すると、このレールは1966年に開業し、1979年に廃止された姫路市営モノレールのレールだということが分かりました。

さらに、調べてみると、この姫路市営モノレールは昔開かれた姫路市大博覧会のために建造されたということも分かりました。僕は、このレールは当時の日本の高度経済成長期の様子をあらわしているんだなと思いました。

しかし、このレールは、当時の活気ある日本をあらわした遺産である反面、経年劣化による周辺住民への危害が恐れられるとともに、美観を損ねてしまうものではないかと僕は思います。

コンクリートの寿命は約60年といわれています。このレールは建造されてから50年ほどたっているのです。剥離などの事故が起こってもおかしくないと思います。

これらの問題について、どのような対策をしているのか、そして、今後の方針についてお尋ねします。

続いて2点目は、最近テレビなどでも報道されている姫路城周辺でふえた猫の放置についてです。

テレビの報道によると、猫がお腹をすかせているのをかわいそうだと思った人が、城周辺でえづけをしていることが原因であると報じられていました。

そのため、城周辺にいる多くの猫が、人間が近づくと自分たちに食べ物を与えてくれると思って、襲いかかるといふ被害が発生しています。また、数多くの猫を放置することによって、姫路市民が誇る世界遺産であり、僕たち、高丘中学校の生徒がボランティア清掃をしている姫路

城の美観を損ねてしまうことはないでしょうか。猫問題への対策と合わせ、以上2点の問題についてお答え下さい。

○稲葉加奈子議長

これより答弁を求めます。

甲良財政局長。

○甲良財政局長

高岡中学校寺谷孔希議員のご質問中「姫路市営モノレール」について、お答えします。

旧姫路モノレール施設は1979年の営業廃止後、JR高架事業等に合わせて順次撤去を行い、現在、営業開始時のレール延長1,824mの内、旧駅舎部分を除いて約640mが残っています。

このモノレール跡は、ご指摘のとおり、当時の姫路をあらわした遺産である反面、コンクリート等の劣化が進んでいることから、毎年、安全点検を行い、安全確保に努めるとともに、危険な箇所については、計画的に撤去を進めており、今年度も、約100mのレール撤去を行います。

しかし、道路幅が狭く、撤去するためのクレーンが入れない撤去困難箇所等について、緑化による美観への配慮を行うなど有効活用についても合わせて検討をしています。

また現在、旧姫路モノレールを見学していただく場として、手柄山交流ステーション内でモノレールの車両や旧の駅舎などを公開していますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

○稲葉加奈子議長

釣観光・城改修担当理事。

○釣観光・城改修担当理事

私からは2点目の「姫路城周辺の猫問題について」お答えをいたします。

現在、姫路城では、飼い主のいない猫にえさやりを行う人が多くなったことによりまして、食べ残したえさ・容器の放置、食事している観

光客へのつきまといといった苦情がふえております。

しかし、えさやりの制限を行うことは、個人の自由な活動でもございまして、制限することは望ましいとも思えません。

猫に罪があるわけではなく、猫を捨てる人やえさやりのマナーの悪さが重要なポイントであると考えております。

そこで、このような現状を解消するため、市民やボランティアの方々とともに、マナーの向上についての働きかけや、飼い主のいない猫をふやさないための取り組みなどを、まもなく実施していく予定でございます。もうしばらく見守って下さい。

以上でございます。

○稲葉加奈子議長

以上でご発言は終わりました。

これで一般質問を終了します。

以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。

今回の子ども議会の案件はすべて終了しましたので、閉会したいと思います。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○稲葉加奈子議長

ご異議なしと認めます。

よって、平成 25 年度姫路市子ども議会は、これで閉会します。

それでは、ここで、姫路市議会 阿山副議長と交代します。

△午後 4 時 40 分 閉会

○阿山副議長

ここで石見市長から本子ども議会に関しましてコメントをいただきたいと思っております。

石見市長。

市長コメント

○石見市長（登壇）

閉会にあたりご挨拶を申し上げます。今日は、子ども議会の皆さん、質問が非常にすばらしい。みんな非常によく勉強している。発言も的確で聞いていて本当になるほどと思いました。

都市のよさを評価する指標として、WHO、世界保健機構、これが四つの指標を提案しています。安全・保険・利便・快適、安全か、健康的か、便利か、快適であるか、この四つで世界の都市を評価するという事になっております。

姫路市はこれに加えて、経済活動、雇用の問題、それともう一つ、教育の環境、この六つで、まちを今整備しております。

今日の質問の統計を取ってみますと、その六つの課題について見事に展開されておまして、先程これは調整したんかと聞きましたら、そうではなくて皆さんの自発的な質問がうまくこの六つの分野に分布しているということで驚きました。この質問に対して、それぞれの担当が回答いたしました。姫路市はいろんなことをよくやっているということを皆さんご認識されたと思います。これを機会に、それなら市議会議員で頑張るか、あるいはこちらの市の職員、あるいは市長になって姫路のまちを運営していくか、こういうことを考える皆さんがふえることを期待しております。

この市の組織をよく非難するときに、皆さんが縦割りということをやります。しかし、縦割りの反対で横割りというのがありますが、皆さん考えてみてください。朝起きたときに顔を洗う、これ水道局の仕事です。ご飯食べる、これ農業がきちんとやられているか、産業局の仕事であり、学校へ行く、道路がきちんとできているか、建設局の仕事であり、学校で勉強する、教育委員会の仕事であり、お母さんが病院へ行く、健康福祉局の仕事であり、そういうようにたくさんの分野で皆さんの家庭での生活が営まれている。だから、縦割りを非難する人は、市の職員やったら全部知っときなさいと、こう

いうことをおっしゃるわけですね。それはできないことはない。ただそれではものすごく浅く広がってしまう。

今日答えた担当者は、それぞれ道路の問題、環境の問題、福祉の問題についての専門家です。こういう専門家を養成して、皆さんの毎日の生活、それぞれの分野にわたる生活を支援していくということが市役所の責任でありまして、この縦割りというのは非常に効率のよい仕組みです。

皆さんでもそうです。中学校、高校まではいろんな分野を勉強する。国語・社会・数学・英語、横に広く勉強する。しかし、大学へ行って、自分の関心のあるところを深く勉強して専門家になっていくわけですよ。そういうことで、世の中の需要にこたえていく。

だから、新聞を読んだり、一般の意見で、また縦割りを耳にしたときに、もちろん職員が横のことに興味を持たないっていう問題がありますが、それに安易にのって、また縦割りがあかんというふうに一意的に決めてしまうのではなくて、何があかんのやと、どこがええんやと、一回自分で考えてみてください。今日の皆さんは、質問するのにいろいろ考えてくれたと思いますが、その態度をこれからも持ち続けてください。

もうひとつは、よいことはいっぱいあるんですよ、けどもみんなお金がかかる。そのお金を市民の皆さんが納められる税金でやるわけです。だから、ないよりあったほうがよいというのはいっぱいあるんです。けどもその中で一番大事なものを市民の皆様からいただいた大事な税金を使っていく、この選択が一番難しい。その難しいところを我々担当しておりますので、皆さんも勉強して、市役所の就職試験、大変難しいですが、突破して、市の職員になっていただくように期待をしております。

今日は皆さんからの質問について、我々も大分勉強いたしましたので、これからも今日の経験をもとに住みよい姫路を目指して頑張ってま

いります。今日はどうもありがとうございました。

副議長あいさつ

○阿山副議長

それでは子ども議会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様、本日は本当にお疲れ様でした。子ども議員の皆さん、初めての議会はいかがでしたでしょうか。きっと相当な緊張をされたと思います。皆さん堂々と姫路市の将来像について、あるいは課題などについて鋭い視点から質問されていましてことに、驚いたとともに大変頼もしく感じました。これからの姫路市の将来を担っていく皆さんに市政について考えていただき、また、こうして民主主義の根幹である議会を体験していただいたことは大変有意義であったと、このように感じております。

申すまでもなく、まちづくりの主役は市民の皆様一人ひとりであります。今回の子ども議会が、ご参加いただきました子ども議員の皆様のみならず、ご覧いただいた皆様にも姫路市の将来や、さまざまな課題についてさらに関心を深め、考えていただくよいきっかけとなりましたら幸いであります。

最後になりましたが、改めて姫路市子ども議会開催にあたり、ご尽力賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、皆様方の今後ますますのご活躍、ご健勝を祈念いたしまして閉会のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

姫路市子ども議会の会議録に署名します。

姫路市子ども議会議長 灘 中 学 校 _____

〃 大白書中学校 _____

会議録署名議員 広嶺 中 学 校 _____

〃 坊勢 中 学 校 _____

〃 琴陵 中 学 校 _____

感想文

1 広嶺中学校 角谷 巴菜

「でこぼこだった道路がいつの間にかきれいに舗装されていた」

今までなら何も思わなかったと思います。

この度姫路市子ども議会に参加させていただいた事で当たり前のように毎日生活していた事にも、市長をはじめとしそれぞれの専門分野の議員の方々が質疑応答を繰り返し、決定されている事に感謝しました。私自身「子ども議会」に参加するにあたり自分の暮らす姫路について考えるととてもいい機会となりました。この貴重な体験を無駄にしないように日々の生活にいかしていきます。

2 豊富中学校 白倉 紅葉

私は今回姫路市子ども議会に参加させていただき、自分の暮らしている『姫路』について深く考えるようになりました。

今まで、姫路のことも、議会のこともよく知らずに生活していたのですが、姫路市子ども議会に参加することが決まり、インターネットなどで、市や国について調べることが多くなりました。また、家族と議会のことを話すようになりました。

当日は、厳かな雰囲気でもとても緊張しましたが、議会という大きな舞台に立つことができ自分に自信をもつことができました。また、自分以外の人の姫路市に対する意見を聞くことができ、自分の中でまた違った考え方もてるようになりました。私の質問に答えてくださった下水道局長様をはじめ、市の職員の方がとてもいねいに答えてくださり、議会で一つのことがらを決めるのが、どれほど大変なことか学びました。

今回、このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

3 四郷中学校 森 あおい

「子ども議会に参加して」

私は子ども議会に参加して、姫路市の現状についていろいろと知ることができました。さまざまな地域が抱える問題点や、それを改善するための取り組みがたくさん行われていることを知り、市議会は私たちの生活をより安全で豊かなものにするための重要な場であることを再確認しました。

私の「お年寄りのための交通網を整備してほしい」という要望には、前向きな答弁をしてくださったので、実現する日も近いだろうと思いました。

実際に議会が行われている本会議場で市政へ要望するという貴重な経験をさせていただき、私たちの住む姫路に対する関心が、より一層深まりました。今後も、姫路市のための行政にいろいろな形で関わっていきたいです。

4 安富中学校 南山 晴海

今回、「子ども議会」に参加することで、姫路市議会議事堂で登壇する機会を得ました。議事堂は、厳粛な雰囲気でも緊張感が漂っていました。

僕は、自分の住んでいる地域の問題を取り上げましたが、姫路市全体のことに目を向けている生徒もいて視点がすごいなと感じました。全体的に、中学生の質問だからか、教育委員会関係の質問が多かつ

たように思います。姫路市職員の方々が、中学生の質問の一つひとつ、丁寧に答えて下さったのが嬉しかったです。

この議事堂で、姫路市がよりよい街となるように、いろんな議論が交わされ、いろんな事が決定されているんだと「子ども議会」を通して感じる事が出来ました。とても有意義な一日を過ごすことが出来ました。僕を「子ども議会」に推薦して下さった先生に感謝します。

5 坊勢中学校 森 丈二

「子ども議会で体験したこと」

僕は子ども議会を体験して感じたことがいくつかありました。

まず、どこの中学校も代表として出てきていて、内容もとても素晴らしく、分かりやすかったです。今、自分の住んでいる地域の困っていることや、姫路市をもっと活発に、PRしようなど、様々な意見がありました。どの意見も、これがあれば、姫路がもっと有名になる、暮らしやすくなるなど、メリットをきちんと述べられていてとてもすごいなと思いました。だけど、それらをする事は決して簡単なことではないんだなと思いました。色んなことをするのに、お金がかかってしまって、もっと重要な所に、お金が足りなくなってしまうというのを聞いて、そんな事態になれば、もっと暮らしにくくなりそうだなと思いました。

これからは、僕たちが大人になったら、この地域をより暮らしやすくしてみたいなと思いました。

6 山陽中学校 濱田 杏佳

私は、子ども議会に参加して多くの事を知ったり、学んだり、経験することが出来ました。各学区での問題や要望、たくさんの人の意見、また、実際の市議会場で、自分が議員として参加し、質問をする。本当に緊張しました。しかし、どれも新鮮で、めったに経験することができないものばかりでした。

ほかに、質問の中だけでなく、質問に対する姫路市役所の方々の応答の中でも、姫路市について新たに知ったことがあったり、私達姫路市民のために、こんなに考えてくださっているんだということを知りました。

子ども議会に参加することが決まってから当日まで、ちゃんと質問文を読めるかどうか不安と緊張でいっぱいでしたが、子ども議会に参加して本当に良かったです。知ったこと、学んだこと、経験したことを、これからの自分の生活に生かしていきます。そして、もっと自分の住む姫路市に関心を深めていこうと思います。ありがとうございました。

7 東中学校 浅野 由希

子ども議会に参加して、意外なことに気づかされました。それは、市長、副市長、議員で様々な事案に取り組んでいるのではなく、多くの局に分かれて専門的に活動しているということです。そのためか、どんな質問・提案をしても、もう既に実施中であつたり、一度試みたけど不具合があつたので取り止めになったというような答えばかりでした。だから、市の取り組みを何も知らずに文句ばかりを言うのは勝手だと思いました。

しかし、その“文句”がないと、当然、市には伝わらないし、今まで思いつかなかったアイデアがないか考え直したり、実施が避けられてきたいいいアイデアが実施されることはない訳で…なので、市のよりよい政治には、市民の“文句”と、その不満を解決するために下す判断が、必要不可欠なんだと思いました。でも私はそのような取り組みを、あまり知りませんでした。では、私たち中学生にも情報が行

き届くようにするためにはどうすればいいのか。ホームページ、新聞を読もうとする中学生は、あまりいないと思います。そのために、電車やバス内の広告や、「市政週間」をつくって、地域の掲示板にチラシを大きく貼ることを検討してみてもどうでしょうか。

私は、議会に参加することで、私たち市民が安全・快適に暮らしていくためのしくみ、議員の責任を自分の目で見て、耳で聞くことができました。また、人前で自分の意見を言うことのやりがい、それが誰かに理解してもらえたときの心に入りきらないような喜びを改めて再確認することができました。このような貴重な体験を、我が校に持ち帰り、生徒会活動などで活かしていきたいです。そして、今近所になぜ電柱が立っているのか、清掃ボランティアが行われているのかを、日常の中で考えながら過ごしたいです。

「軍師官兵衛」による全国への的確なアピールが全国へ行き届いていることを期待して、1月5日、ドラマを観たいと思います。

8 書写中学校 松下 雄大

今回の子ども議会では、とても貴重な体験をさせていただくことができました。普通であればあの席に座ることは議員の方々だけなので生きていくうえで自分の大きな自信にもなるし思い出にもなりました。

いろいろな質問があり、姫路市の取り組みがよくわかりました。どれも納得のいく答えばかりでとても勉強になりました。

僕が質問をしたときは、妙に落ち着いて読み上げることができました。前を向いて暗記もすることができました。もうあそこに立つのは議員になる以外無理です。世界遺産がある姫路市の議員の方々に魅力を感じたし、またあそこに立ちたいので、議員になってみたいです。

子ども議会で学んだ緊張感の中にある落ち着きや、他では絶対できない経験をこれからの生活に生かせるようにしたいです。

本当に貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

9 琴陵中学校 茨 遼河

11月24日に僕たち中学生に姫路市子ども議会という貴重な体験をさせていただきありがとうございました。僕自身は姫路市全体のことを質問しましたが、他の学校の人たちはムクドリのフンや灘のけんか祭りなどの地元に着した問題を尋ねており非常に印象に残りました。その中でも非常に印象に残った発表は2014年に放送される軍師官兵衛のPRなどについての発表でした。

僕たち中学生のために何十人もの姫路市の役員の方がたに出席していただき、また僕たち中学生の意見に的確な意見を返していただきありがとうございました。この経験を学校の生活や私生活でも活かしていきたいと思います。

また、ますますの姫路市の発展をお祈りします。

11 菅野中学校 山本 祥太

ぼくが子ども議会に参加してみて市議会には市長、副市長や教育局、建設局、観光・城改修担当理事などたくさんの方々の専門分野があることが分かりました。また5つの常任委員会では学校教育、文化財や福祉、医療や工業、農林水産などの仕事をそれぞれ担当しているということも知ることができました。そして市議会では市民の人がより良い生活ができるように議員の人が働いてくれているので感謝しなけ

ればいけないと思いました。またこの市議会を大切にしなければいけないとも思いました。質問するときはテレビもあってとても緊張しましたが、質問をし終わったときはとても達成感を感じました。参加して得た経験をこれからの学校生活に、そして人生に活かせればと思いました。

12 大白書中学校 稲葉 加奈子

子ども議会を終えて、まず、他中の生徒の質問文がすごく考えられたものだったことに驚きました。子ども手当、スクールボート、防犯ブザーの配布、などこんな質問もあったんだなあ、と思ったり、これは地域ならではの事だなあ、と思う質問もあつたりと、聴いていて面白かったです。そしてそんな質問に対して真剣に建設局長さん達が答えてくださり、嬉しかったです。何だか、遠く感じていた市議会が身近に感じた瞬間でした。

あとは、やっぱり絶対に経験できないような議長役をやらせてもらえたことが印象的です。あの時、いいクジを引いた自分に感謝です。高い場所にあるなどは思っていたけれど実際に座ってみると予想以上に高くこんな位置から、しかも市長さんまで見下ろせるとは本当に色々初体験でした。

最後に、もう絶対できないような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。とても楽しかったです。

13 夢前中学校 安武 知将

「子ども議会に参加して」

僕は、子ども議会に参加できたおかげで、本当に良い経験が出来ました。なぜなら、会議や議員の模擬体験を通して、僕たちが暮らす姫路市は、多くの人に支えられていることがわかり、これからますます素晴らしい町になっていくだろうと感じたからです。

リハーサルから緊張していた僕でしたが、いよいよ本番をむかえて、「僕にもあんな風に立派に質問をすることができるだろうか。」と、とても不安になりました。他校の中学生はとても立派に質問や提案をしていました。壇上に上がり、いざ質問をする時には、緊張で手が震えて原稿用紙が開かなくなり、パニックになりそうでした。しかし、どの質問や提案にも理事の方たちがわかりやすく答えてくださり、ほっとしたと同時に大きな達成感もありました。この経験を胸に姫路市民としてしっかりと歩んでいきたいと思えます。

14 広畑中学校 黒田 唯人

「子ども議会について」

姫路市子ども議会に参加して感じたのが、同じ姫路でも各地域でさまざまな問題点があることを知ることが出来ました。生活に欠かす事のできない交通や環境問題、高齢化問題など住みやすい姫路市でもさまざまな問題があることが分かりました。僕が質問した「姫路市が行うPR活動」については、かんべえくんやしろまるひめが全国を走り回っている事や大手前通りが幟で色鮮やかになっていると答弁して頂きました。この子ども議会で学んだことは、どんな時でも、自分の思いや考えを言葉として発すること、今回のように挑戦することが大切だということです。これからも、今回の体験を忘れず、さまざまな事に対し積極的に行動していきたいです。子ども議会という普段では体験できない場をつくっていただいた市議会関係者の皆様、本当にありがとうございました。

15 香寺中学校 田村 旭陽

僕は、平成 25 年度姫路市子ども議会に参加できて、とても良かったと思っています。

僕がそう思う理由は 2 つあります。1 つ目は、市議会議事堂の本会議場という特別な場所で、質問をできたからです。

議員席は、本来市議会議員の方々が座られる席なのですが、今回、僕は「子ども議員」として座らせて頂きました。名札もありました。また、質問は演壇でしました。たくさんの目やカメラが向けられていて、とても緊張しました。

2 つ目の理由は、35 人の子ども議員の質問と、それに対する回答から色々なことを学べたからです。

僕と同じように「防災」について質問している議員もいれば、黒田官兵衛について質問している議員もいました。その他にも様々な内容の質問があり、たいへん勉強になりました。

どれも、一生に一度きりの、とても大切な経験となりました。これからの生活にこの経験を生かしていきたいです。また、今後このような機会があれば、また参加してみたいです。

16 淳心学院中学校 久保田 懸斗

「子ども議会を終えて」

子ども議会に参加して、僕はたくさんの人の前で話せる力を更につけることができました。壇上に立つと、思ったより緊張せず、ゆっくり、はきはき話せたと思い、満足しました。他の議員の話聞いても、内容から話し方、丁寧な文を聞き、いろいろ学んだりすることもできました。滅多にない機会なので、自分なりに楽しく、聞き、話し、学ぼうと思っていたので、この子ども議会はとても充実したものになりました。僕たちの思いが大きな花を咲かせ、姫路がますます発展していくといいな、と思います。

僕自身、百点満点で、完璧に終えることのできた子ども議会、本当に参加して良かったです。

17 安室中学校 林 陽香

初めて市議会場に入ったとき、ここで議会が行われるのかとすごく緊張しました。他の学校の人もとてもしっかりしていて、私もおいていかれないようにと焦るばかりでした。今の姫路について真剣に考えたこともなくて最初は戸惑いましたが、この議会をきっかけに色々考えることができ良かったと思います。私は姫路市の PR 活動についてでしたが、他にも交通面や公共施設についてなど色んな視点からの意見があつてたくさんを学ばせて頂きました。市議会がどんな風に行われているのか知ることができ、私たちは子ども議会でしたが実際は本当の議員の方々が意見を言われて姫路市の事が決まっているんだと思うとすごく大変なことだと思います。でも市の人々の為に考えて働くのはやりがいがあると思うので、私も将来人の役に立てるような仕事をしたいです。

18 東光中学校 蔵下 華蓮

「子ども議会に参加して」

このたびの子ども議会で、私が東光中学校の代表として登壇し、貴重な経験をさせていただきました。まず、議会によるチェック機能の役割を果たし、市民の代表として日々活動されている、議員の方々の仕事は、一つ一つの議案が市民の生活にとって重要なことであるとわかりました。そして、今まで議会というものとはどんなことをするのかさえ知らず、又、知ろうとしなかったことを反省しました。

今回私は図書館について質問しましたが、何事も優先順位があり、何でもすぐに実現できないということも知りました。市民から預かった大切な税金を使うので、より多くの人に還元できるようにしなけ

ればならないし、予算も限られているので、本当にすべきことを見極めなければならないことがよくわかりました。

このように、すばらしい経験をさせていただき、市議会をはじめ、関係者の方々にお礼をのべたいと思います。ありがとうございました。

19 朝日中学校 円城寺 彩

先日は学校代表として子ども議会に出席させて頂きありがとうございました。

普段であればまず入ることのない議場や、本物の役員の皆様を前に圧倒され、とても緊張しましたが、だからこそ学ぶことも多く、良い経験をさせて頂くことができました。

他の学校の子ども議員の皆さんがされる質問も驚かされるものや、「なるほど」と納得させられるものが多く、同じ年代の意見としても勉強することができました。

今回の経験を元に、もっと自分達が生きる『街』について改めて目を向け、大切にしていこうと思いました。

このような非常に貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

20 鹿谷中学校 田中 萌慧

私は、子ども議会に参加して自信がついたことがあります。それは、人の前に出て話すことです。私は生徒会役員なので、人前で話すことには慣れていましたが、今回の子ども議会は、テレビなどで放映されるということで少し緊張しました。本番では、しっかりと意見を言うことができたので、自信につながったと思います。

私が質問した「夢前町の活性化に向けての取り組みについて」市議会の方が、分かりやすく丁寧に答えてくださり、私たちのことをしっかりと考えてくださっているんだなと感じました。

私はこの子ども議会でたくさんのことを学び、そして友達もできました。人前で話すということに自信もつき、また他の中学生の意見を聞いたり、市議会の動きや姫路市のことをいろいろと知ることができたので、貴重な体験になりました。この子ども議会に参加できて良かったと思います。ありがとうございました。

21 家島中学校 北脇 真琴

「子ども議会を終えて」

先日、子ども議会に参加させていただき、ありがとうございました。とても良い経験ができました。

私が質問した、「街灯をもっと多く設置することは可能か」という質問に対して、私たちの住んでいる地域のことや交通事情のことも含め答えて下さりました。

他の子ども議員の方は、山や森など自然を守る取り組みについてや、祭などの伝統文化をどう残していくかなどの、身近な地域における市政への提案や要望、姫路市が抱える課題や問題点などを質問していて、私自身も知らなかったことがあり、とても勉強になりました。

今回、この子ども議会において学んだことを、これからの生活にいかしていきたいです。

22 増位中学校 多田 和平

「改めて気付いた姫路への思い」

僕の、商店街についての質問は、みゆき通りで働いている父の影響がありました。

僕の質問に対する答えを父に話すと、「正直納得はできないけれど、聞かないよりは、ずっといい」と言っていました。それは、日頃から父と姫路についていろいろな話をしますが、議会での質疑にむけて、今までよりも具体的に、姫路のいいところや、疑問に思うところ、また、改善してほしいところなどについて、真剣に父と話が出来たからです。また、姫路の町とのかかわりの深い仕事をしている父の姫路への思いにもふれることが出来たと思ったからです。そして、僕が姫路のことについて、いいことも悪いところも考える事が出来るのは、やはりこの姫路が好きだからだという事にも、改めて、気付くことができました。

これからもこの事を忘れず、姫路と言う街を愛し、姫路をよりよくするために自分にできることを探して行きたいです。

23 花田中学校 山本 祐規子

「子ども議会に参加して」

私は今まで、姫路市の事について、あまり考えたことがありませんでした。市議会議員になりたいと思ったこともなく、とくに興味はありませんでした。

でも、今回、子ども議会に参加して、姫路市について考えるよいきっかけとなりました。自分の地域だけでなく、他の地域の事や、姫路市全体の事について知ることができ、また、さまざまな問題に対して市が動いていることが分かりました。

この子ども議会で、普通なら入れない本会議場で、姫路市に対する自分の意見を言うことができ、とてもよい経験をする事ができました。機会があれば、実際の市議会の傍聴をしてみたいです。市議会議員という仕事も、いい仕事だなと思いました。けれども、私には、中学校の教師になるという夢があります。将来私が教師になったとき、またこのような形で、中学生が市議会を体験できるような機会があってほしいです。

24 林田中学校 小林 恵理佳

「子ども議会で学んだこと」

私は、子ども議会で、とても貴重な体験ができたと思います。あの場所に立って、地域が抱えている問題を質問し、その質問に専門家の方がとてもわかりやすく答えてくださりました。わかりやすく、やってみてとても良かったと思いました。

今回、他校が抱えている問題をきくこともでき、同じ姫路市内でも問題点がさまざまでも勉強になりました。また、市議会議員の方はあの部屋で、私たちが姫路市で暮らしやすくなるようなことを考えてくれているということもわかりました。なので、その期待を裏切らないためにも、私たち中学生は学校で一生懸命に勉強することが大切だと改めて思いました。

この体験を通して、私たちにもできることから姫路市を良くしていきたいと思いました。

25 灘中学校 加藤 人識

「子ども議会を通して学んだ事」

僕は子ども議会に参加して、姫路市が、地域の交通の整備や町の清掃、色々なPR活動など想像以上にたくさんの仕事をしている事に驚きました。

さらに、大勢の子ども議員が、色々な質問・発表をした事に対し、多くの時間を使い、詳しい説明やこれからできる一番良い方法などをわかりやすく答弁して下さった事がとても勉強になりました。説明

してくださったおかげで、姫路市がどのような活動をしているのかがよくわかりました。

僕は、議長という大役をやらせてもらい、カメラも回っているし、一番目立つ場所だったので、すごく緊張しましたが、楽しかったです。このような普段では出来ないような体験をさせていただき、とてもうれしく思いました。

今回の経験で市政に興味をもてましたし、これからも一市民として、関心を持ち続けたいと思います。そして、姫路市がさらに良い市となるよう協力していきたいと感じました。

26 飾磨西中学校 池田 奈美

私は姫路市子ども議会に参加して、まず、市議会とはどんな事をするのかと思っていました。

ですが、この機会で市議会とは、私たちが平和で安全に、暮らせるように意見を出しあい長い期間話し合いをして、私たちの平和を守ってくださっている事がとてもよくわかりました。

議場に入る時には、礼をして入ったり、緊張感のある雰囲気にとってもドキドキしました。

また、私が質問した内容はトライやるウィークを中学2年生以外でも行えるかという事でした。

そして、私の質問の答弁は、「林間学校や自然教室、それらがありながらトライやるウィークもとなるのは不可能。するとすると勉強面が遅れおろそかになる。」という事でした。大人になるために勉強しているので無理だとわかりました。ですが、いつかトライやるウィークが数回行われるようになる日がくれればいいなと思いました。

最後に、私は市議会というとても貴重な体験をさせていただいて、これまで生きてきた中で一番堂々していたと思います。また、不安感と緊張感は残りの人生分使った感じでした。

次は本物の議員となり、あの場に立ちたいと思っています。今は、学校で皆の前に立ち皆の役に立つように、そして大人になったら、あの場に立ち、市民の暮らしを守るために働きたいと思うようになりました。

この貴重な体験を忘れず、学校生活や未来につなげていきたいと思っています。

ありがとうございました。

27 置塩中学校 善明 詩乃

「子ども議会に参加して」

私は子ども議会に参加して、初めて知ったことがたくさんありました。まず、姫路市議会議事堂本会議場に入った瞬間です。今までに見たことがないような場所にとても緊張しました。ですが、オリエンテーションが始まると、職員の方や隣の席の子と一緒に緊張をほぐすゲームをしたりして、最初の緊張は少しずつなくなっていきました。お昼ご飯を食べて、いよいよ本番。私が質問するのは後半だったので前半は、緊張せずに聞いていたのですが、みんな読み方がすごく上手だったり、声が大きかったりして、すごいなー。と、思いました。自分の番が近付くとすごくドキドキしました。「はい。議長。」の一言から前に出て、席に戻るまで、ドキドキはおさまりませんでした。がなんとか言いきれて良かったです。とても貴重な経験を中学校最後の年にすることができ感謝します。

28 城乾中学校 牛尾 哉太

僕は、平成25年11月24日に行われた子ども議会に参加しました。

議会の仕組みや、進め方などわからないことがたくさんありました。でも、市の役員さんが詳しく分かりやすく教えていただき、よくわかりました。僕の順番は、28番と遅かったです。みんなの質問がすら

すらと発言できていたのでとても緊張しました。名前を呼ばれたときは、あまりにも緊張して、心臓が破裂しそうでした。

質問をするときは、「大丈夫、大丈夫」と心の中で思いながら、質問しました。質問は少し噛んでしまったけれど、はっきりと言うことができました。僕の質問は、中杉教育長が答えて下さいました。中杉教育長は、中学生の僕たちにも分かりやすく、具体的に答えて下さいました。

市として、僕たちのことを考え、様々な取り組みが行われているんだなということがよく分かりました。他にも、いろんな人の意見や市の取り組みを聞くことができ、大変良い経験になりました。

29 賢明女子学院中学校 寶納 千晴

「姫路市子ども議会に参加して」

初めて本会議場に入った時、重々しい雰囲気にとりまわると気がひきしまりました。まわりを見ると、皆とても真剣な面持ちで、私も緊張感が高まりました。

質疑が始まると、どの子ども議員も堂々としており、姫路についてよく調べ、自分なりの意見や独自の観点からの質問を述べていました。私は大変驚き、深く考えさせられました。また、理事の方々も一つ一つの質問に、とても丁寧に関わりやすく答えてくださり、現在の姫路市の取り組みや、問題点などを把握でき、新たな発見がありました。

他校の生徒との交流の機会も設けていただき、初めて会った人たちと色々な話ができて大変おもしろかったです。

子ども議会開催にあたり、多くの方々のお力添えがあったことを深く感じました。大変貴重な経験ができました。心より感謝致します。

30 網干中学校 檜皮 拓也

「子ども市議会に参加して」

僕は、こんな経験は初めてで、終始緊張しっぱなしでした。議員任命書ももらい、その雰囲気に圧倒されました。そして本番の発表、僕は後半だったのですが、前半から、交通網や防災、図書館についてなど、どれもよく考えたり、調べたりして、僕には考えつかないことばかりで、しかもみんな堂々と話していたので、自分には出来るか不安でしたが、そのときにはしっかり話せるように頑張りました。落ちついて話すことが出来てよかったです。自分の質問に答えてもらうのは、貴重な経験だと思います。他のさまざまな答弁も、とても勉強になりました。

今回、普通では出来ない経験をすることが出来ました。これからは、この経験を大切にして、自分も市民の一員であるので、市政についても興味を持っていきたいと思います。一日だけですが、とても良い経験でした。

31 神南中学校 上野 天士郎

11月24日、僕は姫路市子ども議会に出席しました。そして会場に入った時の雰囲気は今でも忘れません。あの厳粛な空気はすごかったです。

本番、それぞれの学校の人が堂々と提案していて僕も気が引き締まりました。僕は街からはずれた子ども園の登園にスクールバスの利用をとり入れることを提案しました。初めての大会で足がすくみましたが、なんとか提案が終わりました。その後の答弁の中で、「その提案についてはいいと思います。」と言われたとき、僕は何かうれしくなりました。その後、納得できる理由で、僕の提案と違う対策を

姫路市ではとっていることを聞きました。姫路市は市民のさまざまな要望に対してきめ細かな対応をしていることがわかり、すごいなと思いました。会議が終わるとしっかりできたのかという不安と喜びの感情がありました。

僕はこんな機会をくださったことを感謝しています。一生に一度の大変よい経験となりました。これからは姫路の一員として、よりよい町づくりに協力していきたいと思います。

32 白鷺中学校 木村 愛哉

「子ども議会に参加して」

子ども議会での発表は、とても緊張しましたが、自分が考えたことをしっかり伝えられたことは良かったと思っています。また、僕の意見に対して、現在、行われている取組内容やこれからの見通しについて、ていねいに答えて下さり、とてもうれしかったです。僕の他にも様々な意見があり、今まで気付かなかった地域の課題や将来の街づくりについて理解を深めることができたと思います。そして、僕達の毎日の生活が、このような行政の方々や市議会によって支えられていることも知りました。

今回、この子ども議会に参加して、僕も姫路市民の一員として、これからも様々なことに目を向けて、姫路市が良い街になるようにできることは協力していきたいと思います。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

33 飾磨東中学校 松崎 智香

「子ども市議会に参加して」

今回の子ども市議会出席は、私にとって初めての学校の外での活動となりました。

当日、議員さんの席に座ると、私の名前の席札が立てられていました。本当の議員さんのように扱われている、と感じてとても嬉しかったです。

質問のため登壇すると、目の前にたくさんの人がいてカメラも向けられていたので、とても緊張しました。

また、答弁では、中学生の日頃からの疑問に対し、それぞれの専門分野の方々が、一つ一つ丁寧に分かりやすく答えて下さって、とても勉強になったと同時に、姫路の街についての行政の取り組みが改めてよくわかりました。

今回の子ども市議会では、本当に貴重な体験をさせて頂きました。これからも、姫路市の取り組みに興味をもち、学んだことを家族・先生・友人など、たくさんの人々に広めていきたいです。

34 城山中学校 中村 恭輔

「姫路市子ども議会に参加して」

私は、11月24日に「姫路市子ども議会」に参加させていただきました。当日は子ども議会なのに本当の議会のような場所で行われ著名な方々も参加されていて、とても興奮しました。そして当日、驚いたことに、議場の席札に自分の名前が刻まれてありました。とてもうれしかったです。私の質問に対しても、中学生でも、理解出来る言葉で分かりやすく答えて下さいました。おかげで内容がよくわかり大変充実した質疑応答だったと思います。こんなすばらしい議会に参加できたことは、とても喜ばしく、生涯忘れることのない思い出となりました。

13年ぶりに、この企画を考案して下さったことに感謝したいです。姫路市では、安全・保健・利便・快適について様々な取組をしていることが把握出来ました。貴重な体験をさせていただき、ありがとう

ございました。

35 高丘中学校 寺谷 孔希

「より良い姫路を目指して」

今回子ども議会では、34校の中学校の代表の生徒が姫路市をより良くするために、様々な質問をしました。

その中でも特に多かった質問が今話題の黒田官兵衛や僕たち姫路市民が誇る姫路城を目玉としたPR活動にどのように取り組んでいるのかという質問でした。

この質問に対して、市議会の方はTVやインターネットなどを利用して、全国的なPR活動を行ったり、さらに来年には大河ドラマ黒田官兵衛のドラマ館をつくるなど積極的に姫路のPRをしていくと答えて下さいました。

僕も、大河ドラマなどで今姫路に注目が集まっている中、どのようにして姫路をもっと全国の人々に知ってもらえるのかについて興味があったので、この質問はとても面白いと思いました。なにより姫路市に対する市議会の方々の熱意がとてもよく伝わってきました。

僕は姫路市営モノレールと姫路城周辺の猫問題の質問をしました。市議会の方は、姫路市営モノレールでは、今年中にいくつか解体処分をすることと、猫問題では、地域の人々に猫に餌付けをしないように積極的に呼びかけていくので期待してほしいと答えて下さいました。この人達ならきっとこの問題を解決してくれるなと僕は思いました。

このような姫路に対する熱い気持ちを持った人たちがいるからこそ、この姫路市は素晴らしい市になっているのだと思いました。

この子ども議会で僕はたくさんのことを学び、さらに姫路市のことが好きになりました。本当に素晴らしい体験をさせていただき、ありがとうございました。

「姫路市子ども議会」会議録

発行年月 平成26年(2014年)1月

編集・発行 姫路市議会事務局